

近江名所案内全

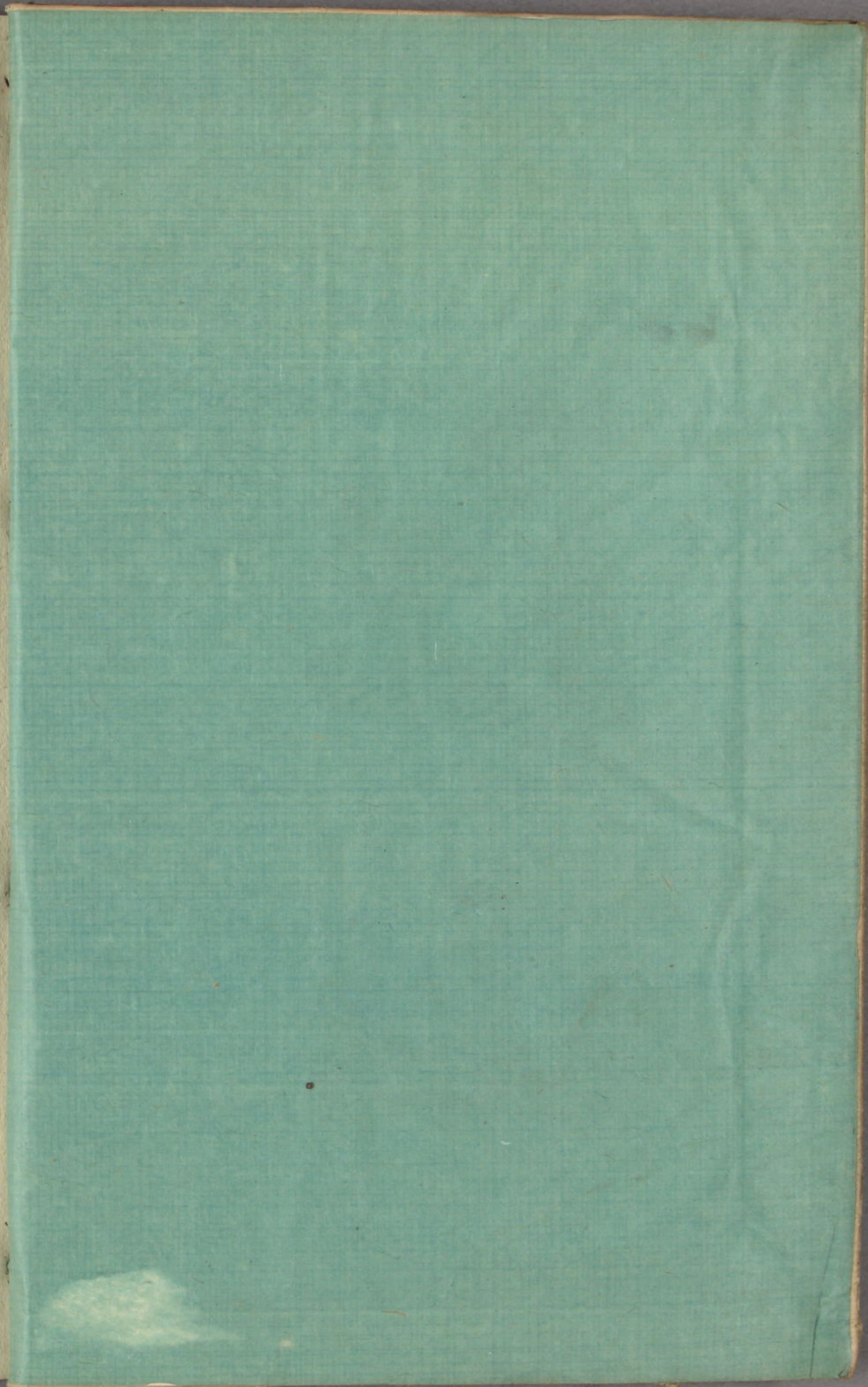


特別  
N 3  
3617  
92



滋賀縣知事從四位大越亨君題辭

江山



色

增  
潤

天濤真題



舟をいばはれむと  
君の世にふりよりの玉の  
なるとは葉のよも とき指

續言

夫近江國ハ昔ニ山水風光ノ美ヲ極クルニナラス名所舊跡ノ討又ヘキモ亦タ甚タ多シ殊ニ西京阪ニ接シ南伊勢ノ大廟ニ近ク鐵路外ニ連リ瀛船内ニ企ム此ヲ以テ遠ク來遊スルモノ常ニ跡ヲ絶タス然ルニ未タ適當ナル案内書ノ備ナク來遊者ヲシテ望ヲ失ハシメ其名所舊蹟ヲモ空シク看過セシムルアリ益遺憾ナラスヤ依テ余許多ノ名所舊跡中其最モ著名ナルモノ及ヒ來遊者ノ杖ヲ曳クヲ多キ所ノモノヲ撰取シ此ノ小冊子ヲ編纂セシ所以ナリ然リト雖モ余ノ不文ナル素ヨリ此書ヲ以テ完璧ト稱スルニ非ム聊カ一時ノ缺ヲ補ヒ大方ノ高著ヲ俟タント欲スル所已

明治廿七年 月

著者誌

各地里程一覽表

◎東海道		◎武佐至愛知川		◎鳥居本至米原	
自 <sup>京都府</sup> 追分至天津	一〇五	自愛知川至高宮	二〇五	自米原至長濱	二〇九
自天津至膳所	三三	自高宮至鳥居本	一一九	自長濱至木ノ本	三三四
自膳所至草津	三三	自鳥居本至醒ヶ井	二〇九	自木ノ本至柳ヶ瀬	二二七
自草津至石部	三三	自醒ヶ井至柏原	一一五	自柳ヶ瀬至中ノ河内	二二七
自石部至三雲	二二	自柏原至 <sup>岐阜縣</sup> 發物	一九	自中ノ河内至 <sup>福井縣</sup> 椽ノ水	一〇一
自三雲至水口	二八	◎御代參街道	一九〇	◎北國脇往還	二八八
自水口至土山	三三	自土山至日野	二二四	自 <sup>岐阜縣</sup> 藤川越至春照	一一〇
自土山至 <sup>三重縣</sup> 鈴鹿峠	二〇	自日野至八日市	三三一	自春照至木ノ本	五二七
◎新海道		自八日市至小幡	一一三	◎西近江路	二二〇
自三雲至寺庄	二二〇	◎朝鮮人街道	一一〇	自大津至堅田	三三二
自寺庄至 <sup>大原</sup> 市場	二六	自篠原至八幡	二二三	自堅田至勝野	六八
自 <sup>大原</sup> 市場至 <sup>三重縣</sup> 境油	二〇	自八幡至常樂寺	一〇六	自勝野至今津	三三五
◎中仙道		自常樂寺至能登川	二二三	自今津至海津	三〇六
自草津至守山	一〇九	自能登川至彦根	三三一	自海津至 <sup>福井縣</sup> 七里	二一〇
自守山至武佐	三三二	自彦根至鳥居原	三三三	◎若狹街道	一九〇
	八三四		一五〇	自今津至 <sup>福井縣</sup> 杉山越	三三二
			一五〇		一七二

近江名所案内

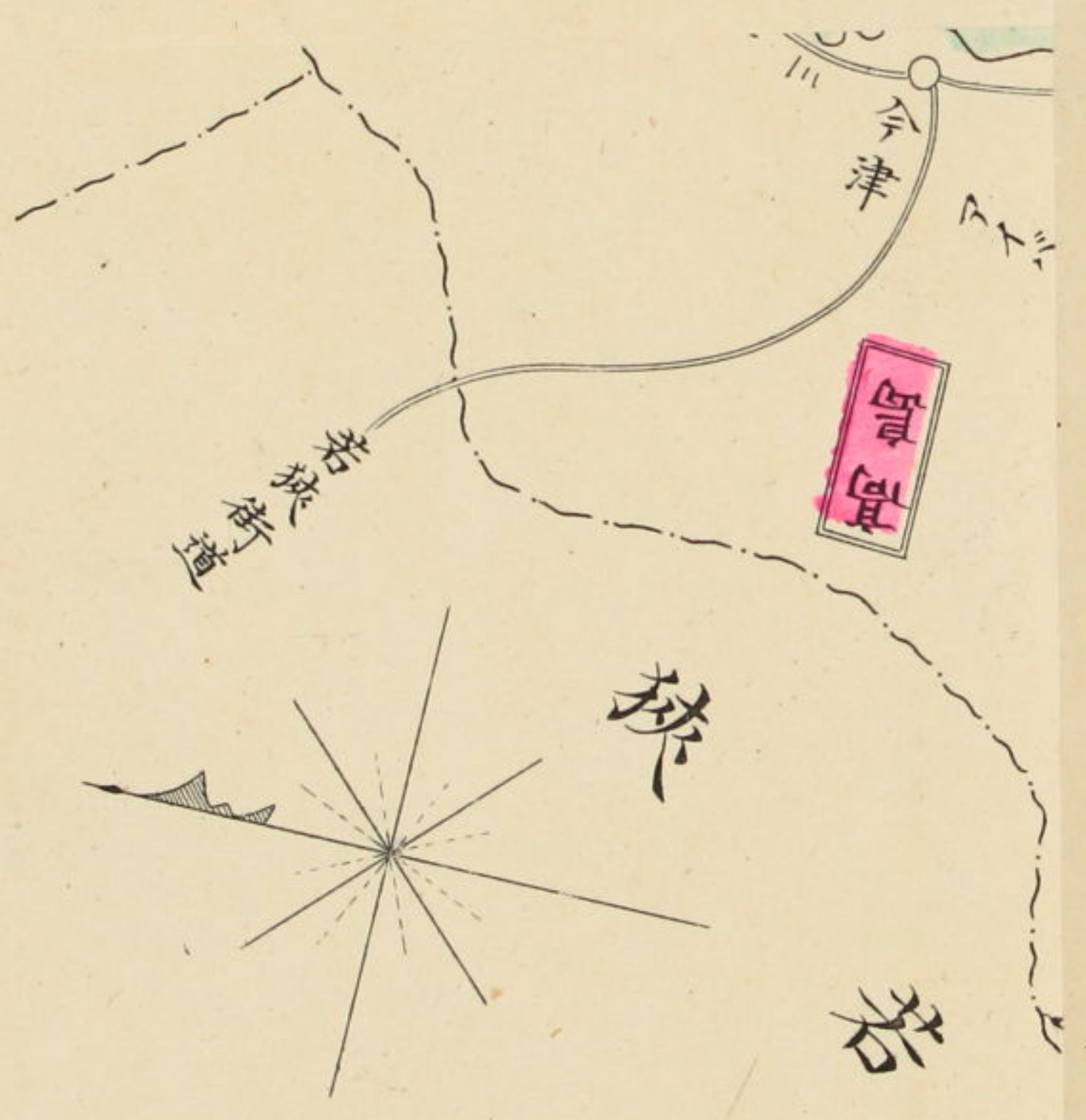
二書方堂藏及

目次

○ 總叙	一丁	○ 粟津	十三丁
○ 琵琶湖	近江八景、説	○ 瀬田川	全
○ 大津	二丁	○ 石山	十六丁
○ 大津繪、説	逢坂山	○ 立木觀音	十八丁
○ 蟬丸神社	関清水	○ 駒止松	全
○ 打出濱	走井餅	○ 唐崎松	全
○ 小野小町墓	立間觀音	○ 志賀宮趾	二十丁
○ 近松御坊	高觀音	○ 志賀、浦	二十丁
○ 園城寺	長等山前陵	○ 高穴穗宮址	二十丁
○ 鎮臺分營	三尾神社	○ 明智光秀陣太鼓	全
○ 疏水	矢、根地藏	○ 坂本城址	全
○ 天孫神社	縣廳		
○ 松本明神	義仲寺		
○ 石場			

○ 比叡山	北一丁	○ 妙感寺	三十八丁
○ 日吉神社	北八丁	○ 水口	三十九丁
○ 西教寺	三十丁	○ 守山	全
○ 來迎寺	全	○ 野洲川	全
○ 堅田	全	○ 平宗盛墓	四十丁
○ 浮御堂	勾當内待墓	○ 近江富士	全
○ 比良山	三十二丁	○ 鏡村	四十一丁
○ 白髭神社	三十四丁	○ 水莖、岡	全
○ 藤樹書院	全	○ 八幡	四十二丁
○ 建部神社	三十六丁	○ 奥、島	全
○ 野路玉川	全	○ 沖、嶋	全
○ 矢橋	全	○ 安土城址	四十三丁
○ 草津	三十八丁	○ 觀音寺城趾	四十四丁

○ 五箇ノ庄	四十四丁	○ 膽吹山	五十三丁
○ 永源寺	四十五丁	○ 醒ヶ井	五十四丁
○ 多賀神社	四十六丁	○ 源具行墓	五十五丁
○ 多景島	全	○ 姉川	全
○ 彦根	四十七丁	○ 竹生島	全
彦根城 樂々園		○ 木之本地藏	五十六丁
○ 佐和山	五十丁	○ 賤ヶ岳	五十七丁
○ 鳥居本	全	○ 余呉湖	六十丁
○ 磨針峠	全		
○ 長濱	五十二丁		
八幡神社 大通寺			
目次終			







近江名所案内

近江 杉本善郎 著

近江國

此國ハ中央ニ大湖アリ故ニ古ハ淡海國ト稱ス山嶽四境ヲ環繞シ土地膏腴ニ物産多ク陸ニ鐵道アリ湖ニ汽船アリ行旅運輸ノ便以テ知ルベキナリ全國ノ面積ハ三百五方里八分九厘ニシテ戸數十三万五千三百餘人口六十七万八千七百餘アリ琵琶湖一ニ二ホノウ三（鶺鴒多ク游泳スルヲ以テ鳩ノ海ニ作り）ト云フ東西五里廿七町南北十六里十三町餘其形琵琶ヲ倒スニ似タリ抑モ此湖ハ孝靈天皇ノ御世一夜ニシテ開ケ同時ニ富士山ヲ湧出スト湖中ニハ奥沖多景竹生ノ四島アリ水産ハ其種類多シト雖モ鯉鮒鮎ヲ取トス鮒ハ源五郎鮒又紅葉鮒ト稱スルモノアリテ其名高シ

近江八景ハ石山秋月勢田夕照粟津晴嵐矢橋歸帆三井晚鐘唐寄夜雨堅田落鴈比

近江名所案内

二書堂成版

良暮雪ヲ云フ夫此ハ景選擇ノコトハ諸説紛々一定ニ難シト雖モ蓋シ慶長年間  
(凡ソ三百年前近衛信尹公始メテ膳所城ノ為メ擇バレシトノ説信ズベキニ似タ  
リ

### 滋賀郡

大津ハ當國第一繁華ノ地ナリ地勢山ヲ背ニシ湖ニ面ス戸數五千七百人人口二万四  
千二百餘アリ市街ハ東西ニ廣ク其状恰モ鶴翼ニ似タリ京都三條橋ヲ距ル二里  
三十四町餘物産ハ針算盤麴酢燕等トス  
大津繪ハ追分繪トモ云フ僕奴持鎗婢女擔藤夜叉打鉦猿猴似瓢塵大鯰犬咬盲者  
之禪等ノ戲画ニシテ着色粗ナル処却テ雅趣アリ貞享ノ頃(凡ソ二百年前)湯淺又  
兵衛始メテ之レヲ画クト云フ芭蕉翁ノ句ニ「大津繪の筆此始めハ何佛」ト此句ニ  
依テ考フルニ古ヘハ佛画ヲ專ラトシ後漸ク浮世繪ニ變シタルモノナル可シ  
逢坂山ハ京街道ニ在リ古ヘ關門ヲ設ケ逢坂ノ關ト稱ス

名ありおも逢坂山のおねかつ人知らせりもろもろ 三條右大臣  
名物走井餅ハ大谷停車場ヨリ僅ニ半町音シハ一小池アリテ往來ノ人多クハ此處  
ニ休息セシト云フ

立聞觀音ハ上關寺町、安養寺ニアリ此觀音ハ昔シ蟬丸ノ琵琶ヲ立聞セシト云フ  
關清水蟬丸神社ハ清水町ニアリ蟬丸幽栖ノ處ナリ

關清水ハ蟬丸神社ノ境内ニアリ然レ氏之レ古歌ニ詠スル處ノモノニアラズ里人  
云フ古ヘハ關清水ハ已ニ涸レテ今清水町民家ノ後ニ其跡アリト

逢坂の關の清水ニ影見へて今や曳らん望月の駒 貫之  
小野小町塚ハ蟬丸神社ノ後山ニアリ小町ハ老後此邊ニ住ミシト云フ其當時草菴  
ノ柱ニ書キシ歌アリ

終るまで身をぞ身おそと思ひんを自らまつるのべの野送り  
打出濱ハ逢坂山ヲ越ヘ始メテ見ユル湖邊ニシテ市街ノ東部ニ浴ヒタル處ヲ云フ

逢坂を打出て見まは近江の海白木綿花は浪立ち渡る

讀人知らば

牛塚ハ霜牛塔又迦葉塔トモ呼ブ關寺町長安寺前ノ竹叢中ニアリ治安ノ頃ハ八百七十

年前此地ニ伽藍造營ノ事アリ大木巨石一牛ヲシテ悉ク之レヲ運バシム偶入ア

リ此牛ヲ借り將ニ明日ヲ待テ他ニ使役セントス夢ニ牛ノ告クルアリ曰ク我ハ

迦葉佛ニシテ伽藍ノ工事ヲ援ケン為ニ化身スルモノナリト之レヨリ世ニ牛佛

ト稱シ尊崇セシト云フ

近松御坊ハ蓮如上入山門衆徒ノ為メニ洛東大谷ヲ燒カレ祖師親鸞ノ木像ヲ薦ニ

包ミ遁レテ此地ニ來ル三井寺ノ僧徒助ケテ此寺ニ居ラシム蓮如山科坊ノ建立

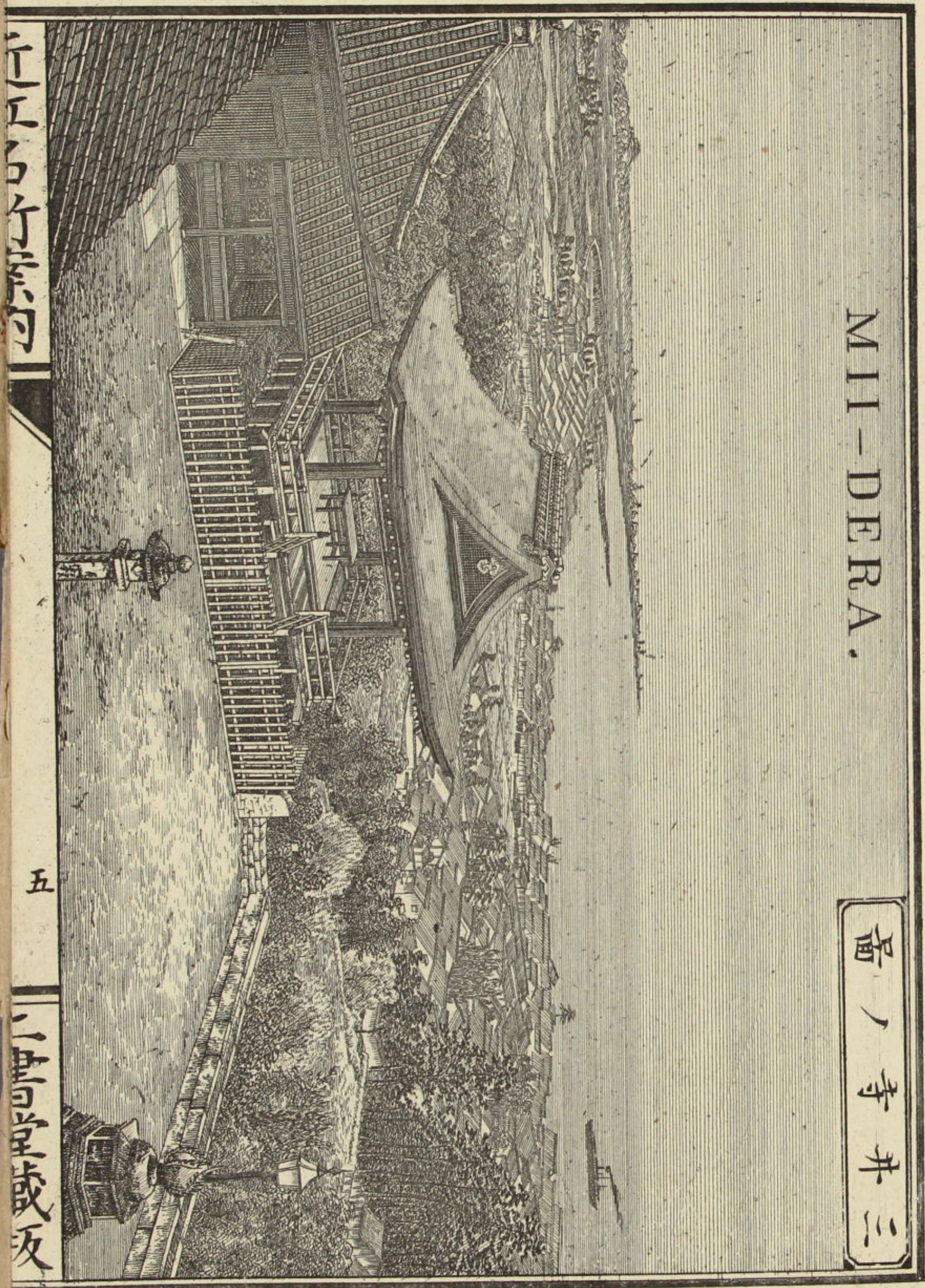
成ルニ及ンテ祖師ノ像ヲ移サントス三井寺ノ僧徒之レヲ拒ム依テ自ラ筆ヲ執

リ画像ヲ製シテ之レヲ遺シニ子蓮淳ヲシテ此寺ニ住セシム

高觀音ハ長等山ノ半腹ニアリ滿山櫻楓多ク樹下常ニ茶亭ヲ設ク湖山ノ風景亦佳

ナリ

園城寺ハ一二三井寺ト稱ス弘文天皇ノ御子與多王ノ草創ニテ中興ノ祖ヲ智證大



MII-DERA.

三井寺ノ跡

師トス古ヘハ八百五十九坊アリ僧徒常ニ叡山ト相和セス戦鬪ノ止マザリシハ  
歴史上見ル所ナリ寺域ハ東西五町南北廿町餘アリシモ維新後ハ官林トナリタ  
ルモノ多ク僧舎ノ如キモ現存ノ數僅ニ五十二過ギズ

あゆふその曉ちぎら始めどとまつきく三井の入心の鐘 藤原信尹

三井名蹟欲問誰他人曾此建仁祠龍宮城裏華鯨吼

深看人間薄暮時 林羅山

御幸山ハ紀念碑ノアル處ナリ明治十一年 主上御巡幸ノ片蹕ヲ駐メサセラレシ

地ナルヲ以テ名クルナリ

三井寺觀音ハ御幸山ノ稍下ニアリ寺ヲ正法寺ト云フ西國三十三所ノ一靈場ニシ

テ俗ニ順禮觀音ト云フ大津ノ人烟眼下ニアリ眸ヲ放テハ琵琶湖渺々トシテ奥

沖ノ二島其前面ニ當リ兩島ノ間糶糊トシテ雲力山カヲ疑ハシムルモノハ膽吹

山ニシテ左岸近ク蔚然タルモノハ比叡山トス其後ニ聳ヘテ比叡ト馬耳ヲ為ス

モノ之レヲ比良ノ峯トス對岸ハ總テ緒山ニシテ其中獨リ翠色ヲ恣ニスルモノ

之レヲ近江富士トス其他唐崎ノ松堅田ノ浦等坐シテ指サスベク奇勝絶景實ニ  
天然ノ活画幅ナリ

村雲橋ハ昔シ智證大師炎氣ノ上ルヲ見テ唐ノ青龍寺火災アルヲ知り橋畔ニ立テ

水ヲ灌ギタルニ橋下忽チ雲ヲ生ズ之レヨリ橋ヲ名ケテ村雲ト云フ

智證大師ノ廟ハ唐院ニ在リ大師ハ圓珍ト稱シ讚岐國ノ人入唐シテ留學數年歸朝

ノ後比叡山ノ座主ニ補セラレ當寺ヲ創ス

三井水ハ天智天武持統三帝御降誕ノ沐浴湯ニ用ヒ玉ヒシモノニテ俗ニ御井ト稱

セシヲ智證大師改メテ三井トス別チ三帝浴井ノ意ヲ取ルナリ寺号一ニ三井寺

ト稱スル亦タ此井泉アルニ因ル

辨慶曳摺鐘ハ破鐘堂ト呼ブ梵鐘高五尺五寸厚三寸五分口徑四尺一寸龍頭一尺一

寸五分サリ此梵鐘ハ田原藤太秀郷龍宮ヨリ得タルモノニテ曾テ延曆寺ノ僧徒

之レヲ奪ヒ去リ撞ケトモ鳴ラズ遂ニ比叡山中無動寺谷ニ棄テタルヲアリシモ

後チ再ビ此寺ニ還ルト云フ梵鐘瑕アリ恰モ地ヲ曳キタルモノ、如シ

腰掛松ハ善法院ノ庭ニアリ其高サ僅ニ二間ニ過ギズト雖モ技ノ四方ニ廻々タル

モノ凡ソ十五間奇松ト云フベシ

日光院ノ書院ニ画キタル虎ハ狩野元信ノ筆ニテ夜ニ至レハ嘯クアアリシカ狩野

探幽ヲシテ虎兒ヲ其傍ラニ画カシメシニ爾後復タ嘯クナシト云フ

金堂ノ弥勒佛ハ支那ヨリ百濟ヲ經テ我國ニ傳來シタル靈像ニシテ用明天皇尊崇

浅カラズ尋テ天智天武ノ兩帝ニ傳ハリ朱鳥元年(凡ソ千二百年前ニシテ智證大

凡ソ二百年)之レヲ當地ニ安置スト云フ

教待和尚廟 教待ハ此地ニ住セシ仙人ナリ智證大師當寺創立ノ年已ニ百六十歳

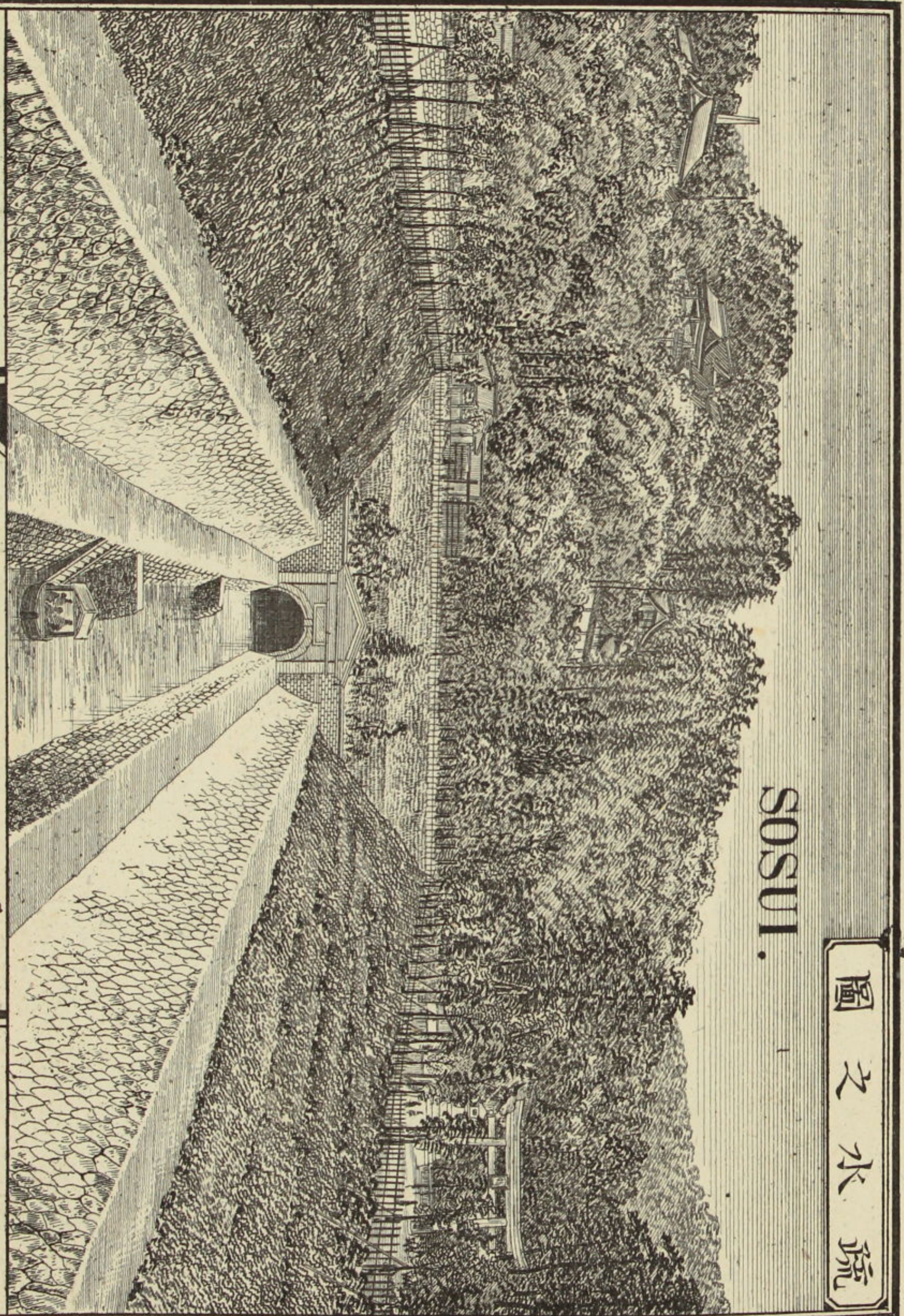
ナリシト云フ廟中ノ石窟ハ則チ和尚ノ隠レシ處ナリ

辨慶ノ汁鍋ハ口徑五尺三寸深三尺二寸厚一寸餘アリ辨慶常ニ汁ヲ煮ルニ用井タ

ルモノナリト

新羅三郎義光墓 義光ハ源頼義ノ子ナリ勇智ニシテ技能多シ後三年ノ役兄義家

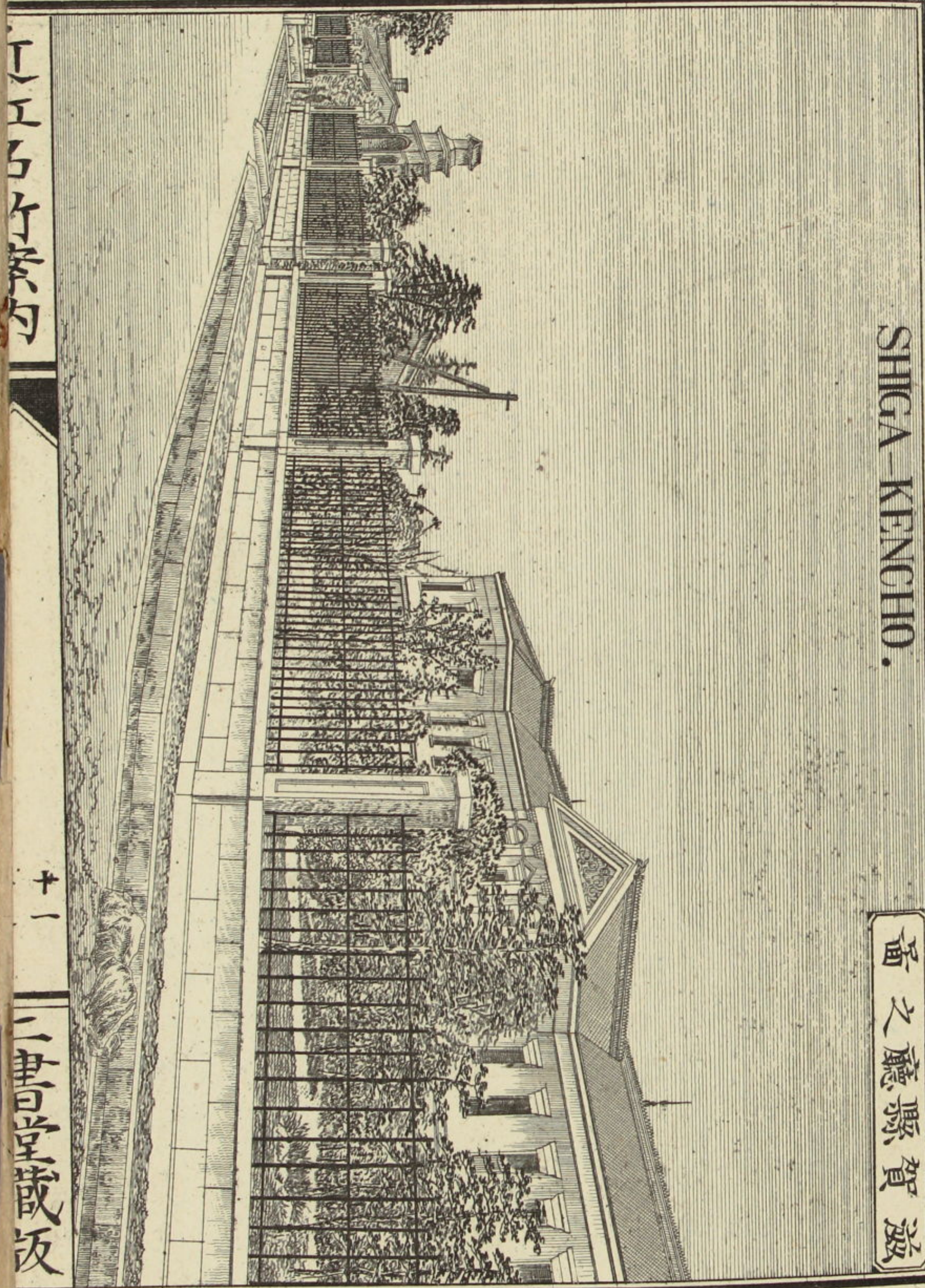
軍利アラザルヲ聞キ官ヲ舍テ、赴キ大ニ功ヲ立テシト云フ義光夙ニ佛ヲ信シ當



SOSUI.

國之水院

寺域ケイナイニ一字ヲ建テ金光院コンクワウイント名ク大治二年其寺ニ於テ卒ス  
 長等山前陵ナガラヤママヘノミサギハ弘文天皇ノ御陵ナリ帝ハ天智天皇ノ皇子ニシテ大友ト称ス國史ニ  
 壬申ノ乱長等ノ山前ニ崩ズトアリ  
 鎮臺分營チンダイブンエイハ大坂第四團ノ貯管ナリ  
 三尾神社ミミノシヤハ三井寺ノ前ニ在リ伊弉諾尊ヲ祭ル  
 疏水ソスイハ三尾崎ヨリ三井寺山ヲ貫キ京都ニ通スル運河ニシテ工ヲ明治十八年ニ起  
 シ同廿三年ニ竣ル延長凡ソ二里十町餘隧道六ヶ所アリ其長合計二千百六間餘  
 抑此大事業ハ前京都府知事北垣君ノ拮据經營セシモノニテ工費ノ多キ殆ンド  
 二百萬圓ニ達ス  
 田原藤太秀郷タハラトウダヒデサトヤノ根地藏ネネザウハ葭原町ノ花階寺ニ在リ  
 四ノ宮シノミヤハ四ノ宮町ニ在リ天孫神社ト云フ每歲十月十日祭典ヲ行ヒ曳山ヲ出ス  
 滋賀縣廳シシガケンチヨウハ明治廿一年ノ新築ニシテ東西百七十九間南北七十四間餘工費ノ高九  
 萬圓ニ近ク構造ノ堅牢ト美觀トハ他府縣多ク見ザルトコロナリ



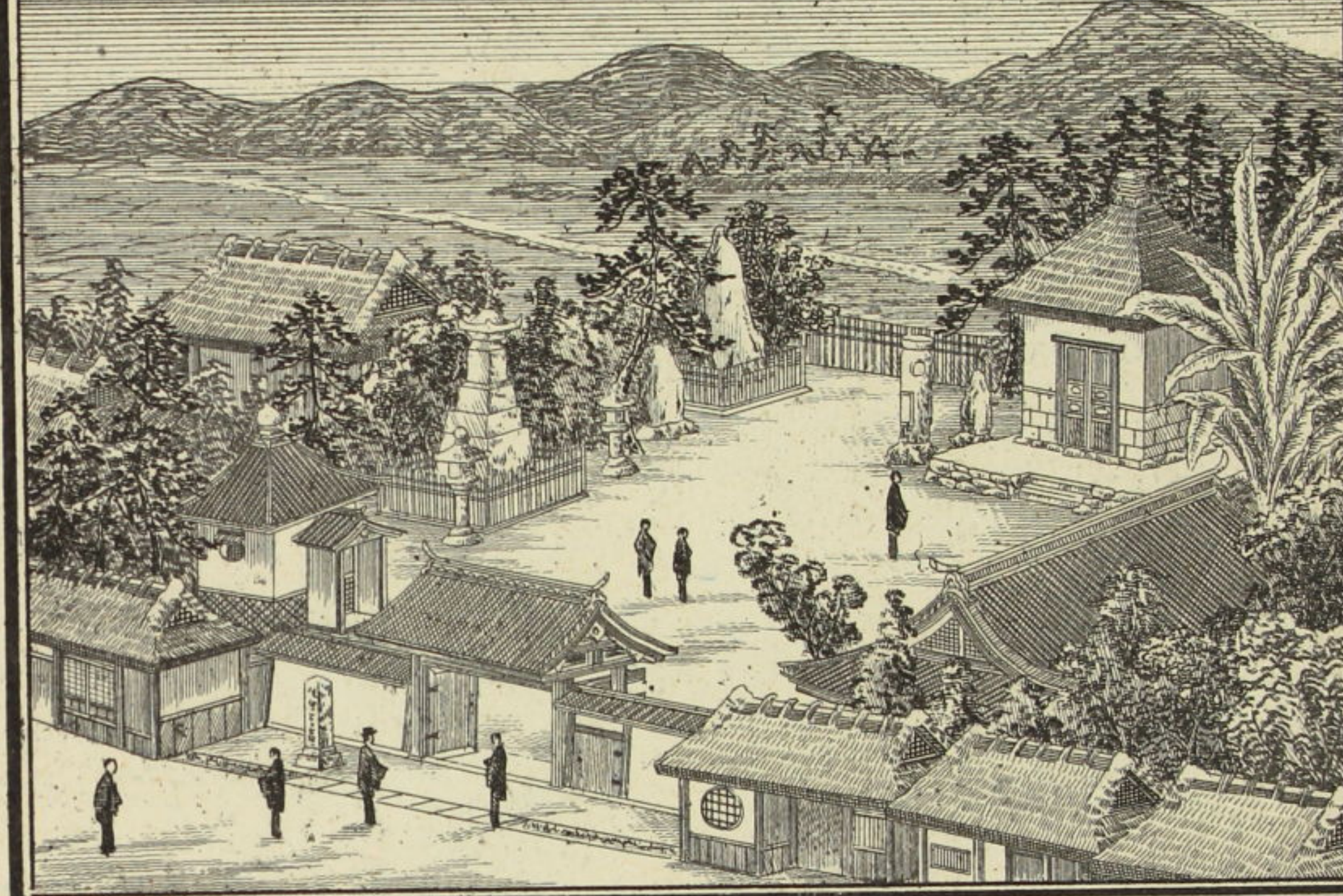
SHIGA-KENCHO.

滋賀縣廳

工石竹紫内

義仲寺ノ畵

YOSHINAKA-DERA.



松本明神ハ蹴鞠ノ精ヲ祭リタルモノニ  
テ精大明神ト云ヒ又蹴鞠ノ宮トモ云  
フ

義仲寺ハ朝日山ト号ス木曾冠者義仲ノ  
墓アリ義仲幼ニシテ孤長ニテ將畧ア  
リ源範頼源義經ト粟津ニ戦ヒ之レニ  
死ス年三十一屍ヲ此處ニ瘞ム

更有何人薦藻繁。澹煙微雨鎖黄昏。  
湖南三尺無情土。瘞却英雄未死魂。

藤井竹外

又此寺ニ芭蕉翁ノ塚アリ翁ハ俳諧ヲ以  
テ其名著ル伊賀國ノ人ニシテ諸國漫  
遊ノ末元禄七年浪華ニ於テ死ス遺言

ニ因テ此處ニ葬ル即チ其時塚ニ記スルニ本曾殿と背中合せの寒まらふノ句ヲ  
以テセシト云フ又別ニ石ヲ立テ旅ニ病で夢ハ枯野をかけ廻るノ句ヲ刻ム是翁  
ガ風詠ノ終ナリ

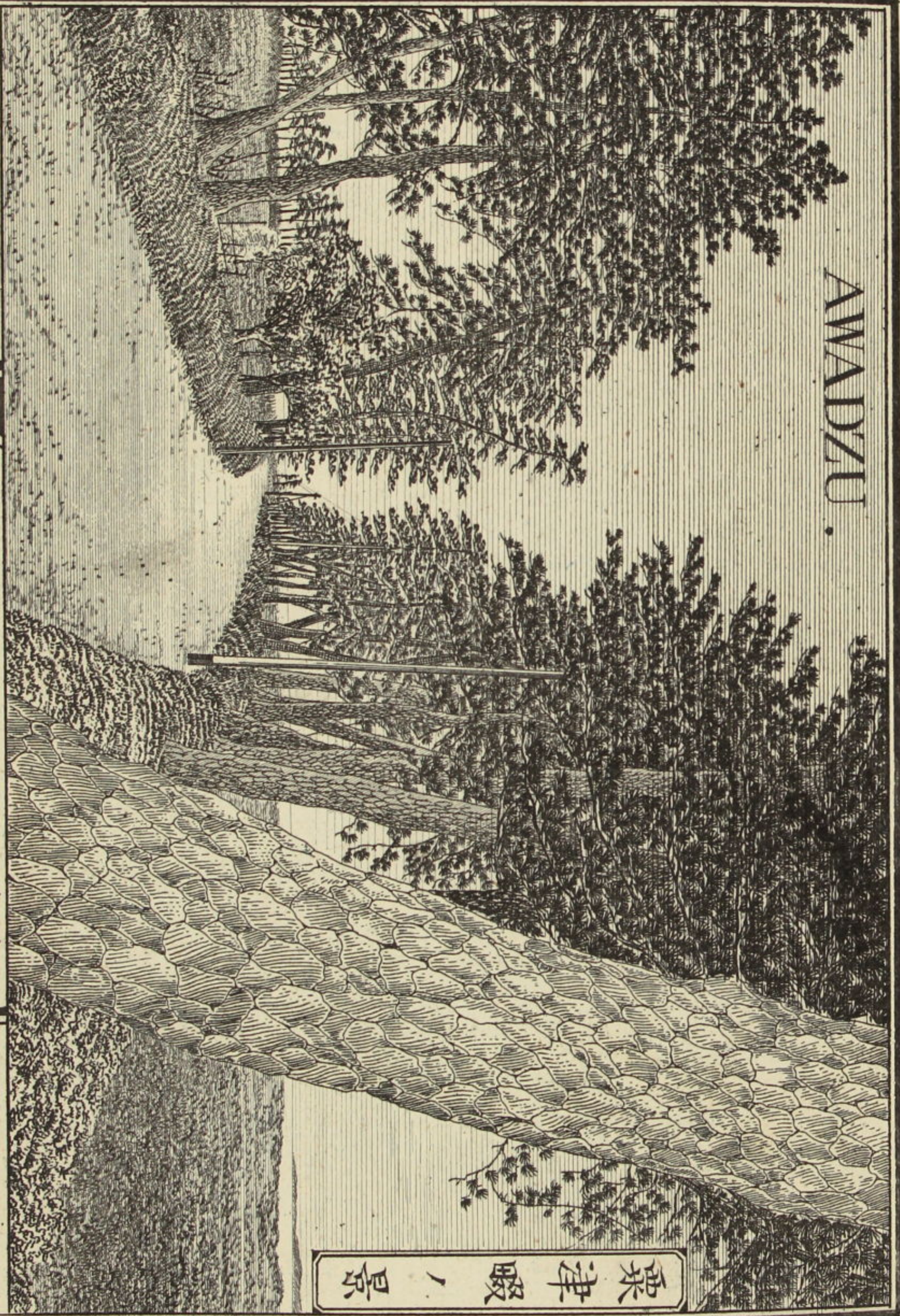
石場ハ古ヘ矢橋通船ノ發着繁カリニ處ニシテ路傍ニ老松アリ枝葉鬱茂ノ状恰モ  
雨傘ヲ開クガ如シ榜シテ呼次松ト名ク

粟津暇ハ膳時ヲ過ギ瀬田ニ赴ク處翠松一帯道ヲ挾ミ清漪輕ク岸ヲ打ツ即チ近江  
八景ノ一ニシテ木曾義仲戰没ノ處ナリ又今井四郎兼平ノ墓アリ兼平ハ義仲ノ  
將ニシテ巴(義仲ノ妻)ノ兄ナリ

雲もりふ嵐よつまて百船も千船も浪の粟津まどよ  
藤原信尹

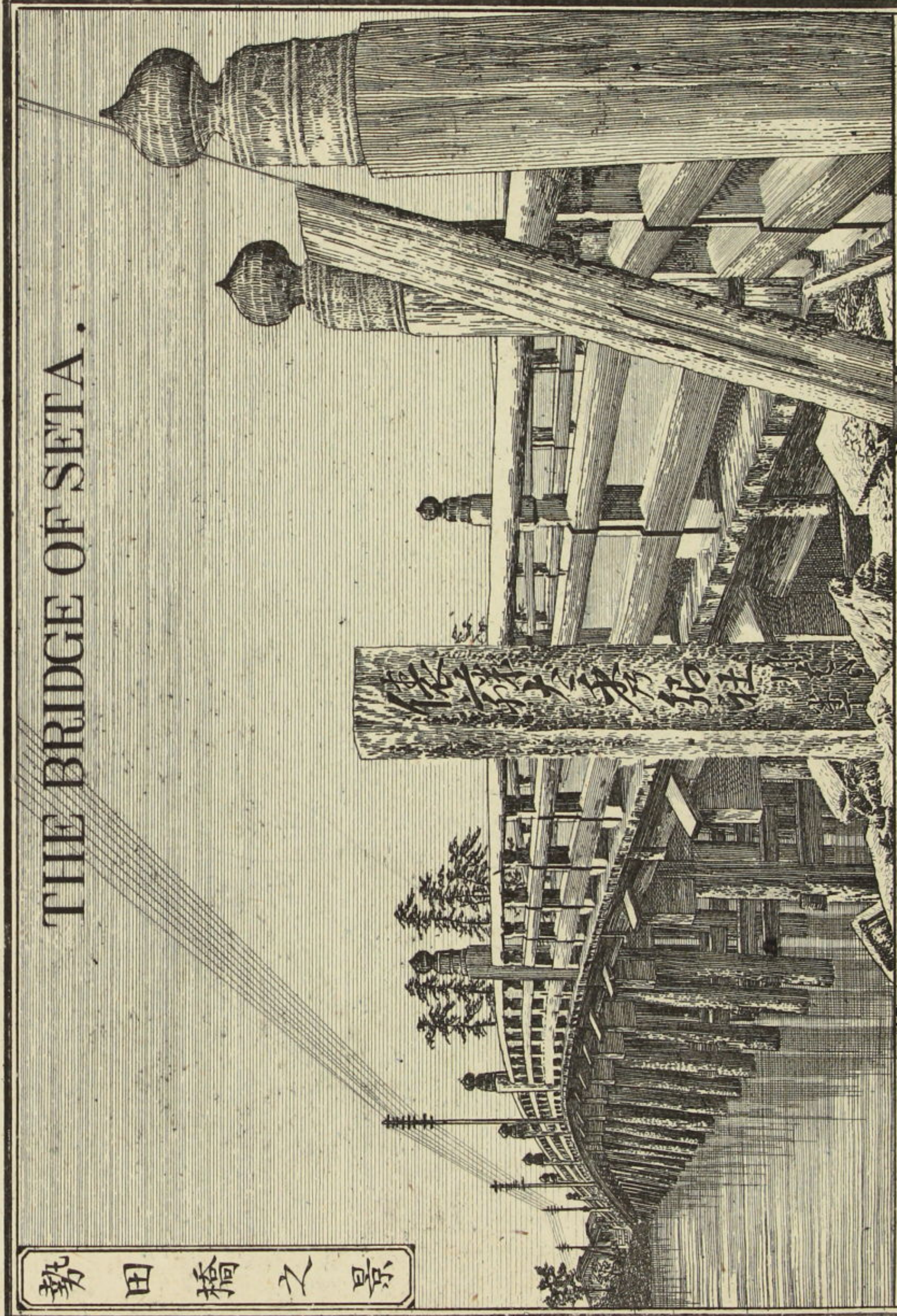
粟津物景翠微連。漾々岬々乍霽前。唯見江東雲不度。嵐光水色共青天。林羅山

瀬田川(宇治ニ至リ宇治川ト呼ビ)ハ琵琶湖ノ流注スルモノニシテ下流ハ其河幅漸ク  
狭ク水勢激湍ノ處米洗鹿跳等ノ勝アリ此川ニ架スル橋ハ所謂瀬田ノ唐橋ニシ  
テ大小ノ二橋トナス其長通シテ百二十三間アリ傳ヘ云フ往昔田原藤太秀郷此



AWADZU.

衆津殿，景



THE BRIDGE OF SETA.

勢田橋之景



橋ヲ過キル偶々大ナル蜈蚣アリ三上山ヲ圍繞スル一七回半首ヲ橋畔ニ出ス秀  
 郷射テ之レヲ斃スト國史ヲ閱スルニ古來東國ノ兵京師ニ攻メ入ラントスルヤ  
 必ズ拒グニ此橋ト宇治トヲ以テス彼ノ壬申ノ乱弘文帝大海人皇子ト戰ヒ承久  
 中山田重忠ノ此條泰時ヲ拒キ建武中名和長年等ノ足利尊氏ヲ拒ク共ニ此橋ニ  
 據ラザルハナシ獨源範賴ノ義仲ヲ攻メシ片ハ供御ノ瀬ト稱シ是ヨリ數町ノ下  
 流ヲ渡リシト云フ

露時雨もる山遠くすぎ来づ夕日のまじり勢田の長橋 藤原信尹

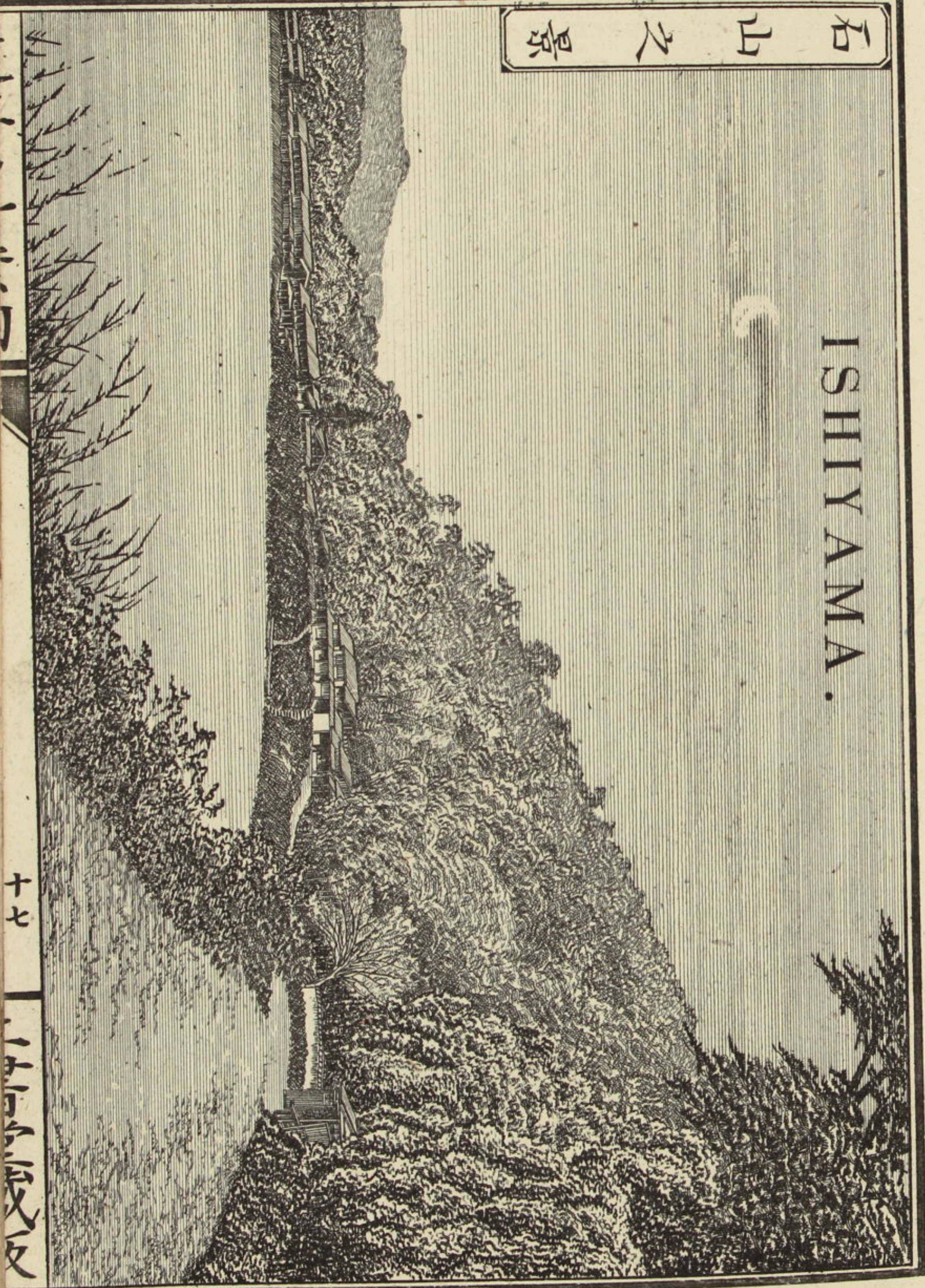
萬頃煙波浸夕陽。板橋倒影臥龍長。白鷗何意眠沙岸。不識春風送歲芳。 林羅山

五月雨まかきぬものや瀬田の橋 芭蕉

石山亦夕近江八景ノ一ニシテ瀬田川ノ西岸ニ在リ怪岩奇石一々名狀スベカラス  
 山腹ニ觀世音ヲ祀ル石光山石山寺ト号ス天平勝寶元年(凡千百五十年前)僧良辨  
 ノ開基ナリ堂ノ内ニ源氏間ト名クル一室アリ紫式部源氏物語ヲ書タル所ナリ  
 ト云フ式部遺愛ノ硯今什寶トナル其形直方形ニシテ四方ニ脚アリ縦六寸二分

石山

ISHIYAMA.



幅八寸四分高一寸三分アリ観音堂ヨリ稍上レバ式部塔經藏頼朝塔寶塔等アリ  
 寶塔ノ東二月見堂アリ秋宵観月ノ處トス瀬田夕照矢橋歸帆眉睫ノ間ニ相集リ  
 眺望頗ル佳ナリ殊ニ此山ノ近傍ハ夏時螢火ノ發生夥シク晚景ヨリ瀬田河上ニ  
 簇ル壯觀實ニ賞スヘキナリ

石山や鳥の海くさる月影の明石も須磨とやうあゝぬらひ 藤原信尹

怪岩奇石入緇園。楓樹風寒秋色翻。不讓洞庭千古月。影瀦湖水上山門。林羅山

立木観音ハ瀬田川下流ノ西岸ヨリ登路數町ノ山腹ニ在リ立木ニ彫刻セシモノニ

シテ弘法大師四十二歳ノ作ナリ故ニ之レヲ厄除ゲノ観音ト称シ參詣スルモノ

甚ダ多シ

駒止松ハ大津ノ北唐崎道ニ在リ今井兼平ノ潜匿セシ處ナリト云フ

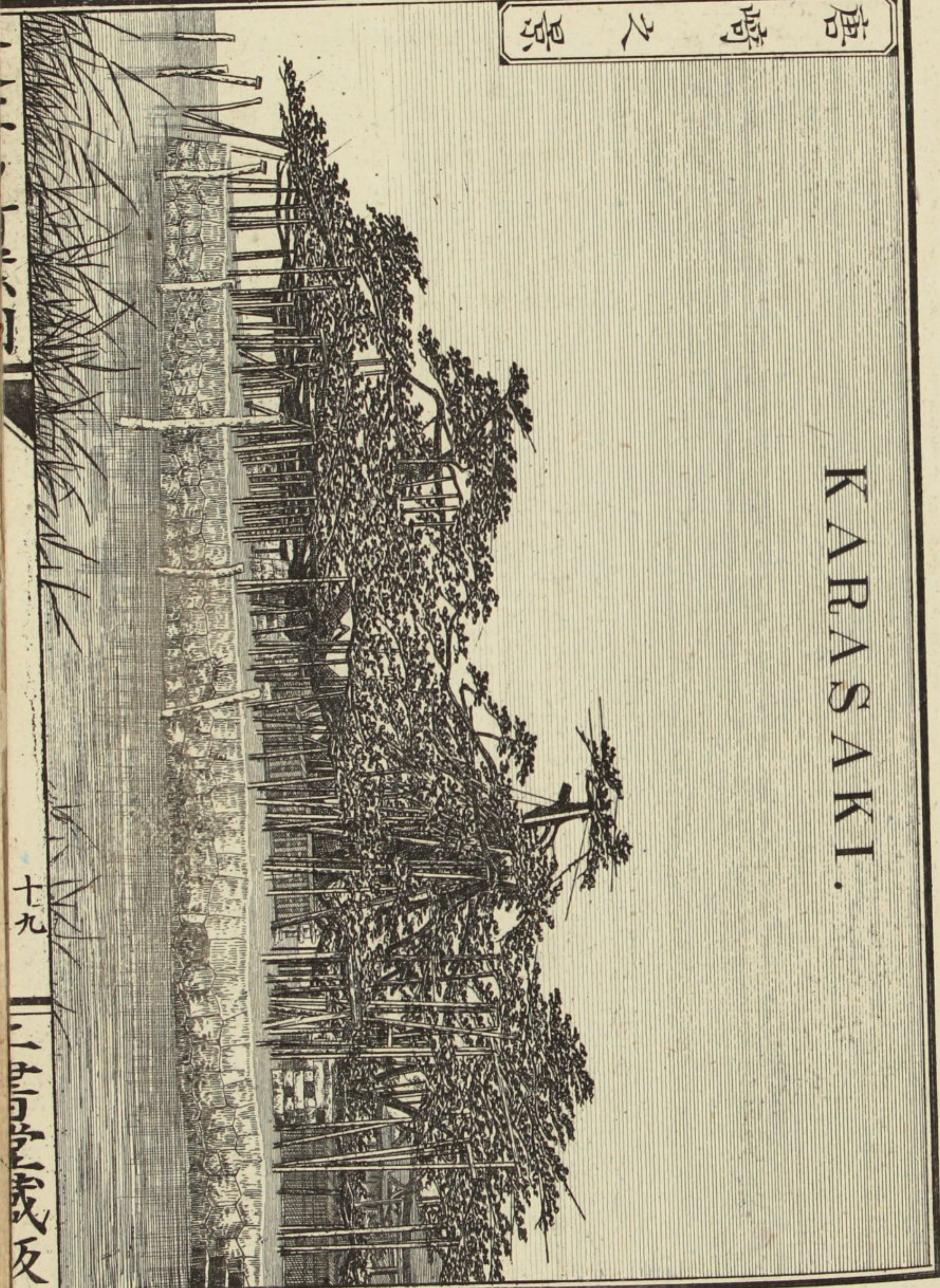
唐崎ノ松ハ世ニ一本松ト称シ近江八景ノ一ナリ老幹盤屈恰モ蟠龍ノ如ク翠影鬱

然湖面ヲ掩フ枝ヲ支フルノ柱ハ猶幾重ノ木柵ヲ繞ラスニ似タリ抑此松栽植ノ

事ハ數説アリト雖氏蓋シ往古軒端ノ松ト称スルモノアリシガ何レノ世ニカ枯

岨 八 岨

KARASAKI.



レタルヲ惜ミ大津城代新庄駿河守直頼天正年間(凡ソ三百年前)更ニ此松ヲ裁ヘタリト  
ノ説真ナルガ如シ

夜の雨ニ音をゆづりて夕風をよそみせ立る唐崎の松 藤原信尹

江上來尋古帝城渺茫雙眼水雲橫當年高蓋管絃響變作孤松夜雨聲 林羅山

志賀ノ宮ハ天智天皇大和飛鳥宮ヨリ遷都シ玉ヒシモノナルカ壬申ノ乱以後ハ荒

廢シテ今ハ錦織村ノ近傍僅ニ舊都ノ名ヲ存スルノミ又神樂浪ノ志賀ノ浦トハ

即チ此邊ノ湖濱ヲ稱スルモノナリ

波や志賀の都のあまのつを昔あがりの山櫻の那 忠度

浪や國つみ神のふるまひて古き都は月ひたりすむ 法性寺入道

高穴穗宮ハ景行成務仲哀三帝ノ皇居ニシテ穴太村ニ其址アリ

明智光秀陣太鼓ハ穴太村ノ盛安寺ニ在リ

坂本城趾ハ壺笠山ニアリ此城ハ織田氏山門ヲ燔クノ後明智光秀ヲシテ築カシメ

タルモノニテ光秀反旗ヲ翻ヘスニ及ヒ從弟光春安土ヲ逃レテ此城ニ入ル秀吉

ノ兵來テ之レヲ攻ム光春遂ニ自殺シ城陷ル

比叡山ハ山城國ニ跨カル高山ニシテ傳教大師延曆寺創設ノ靈場ナリ故ニ尔來佛

道ヲ此山ニ修ムルモノ甚タ多ク光定圓仁源信良源等ノ名僧輩出シ佛閣僧房山

ニ滿ツ殊ニ歷世ノ天皇屢々行幸アリ元龜以前ハ寺領六万石ヲ有シ支坊ヲ合セ

テ其數三千院ノ多キニ至リ僧徒常ニ兵器ヲ蓄ヘ時ニ勤王ノ舉ナキニ非ズト雖

モ跋扈ノ極往々暴横ノ事アリ朝命尚制スル能ハズ白河帝曾テ曰ク天下朕ノ命

ヲ用井ヤル者ナシ唯意ノ如クナラザルモノハ鴨河ノ水雙陸ノ采山法師ノミト

織田信長京畿ヲ畧スルニ及ンテ山徒命ニ背ク信長大ニ怒リ元龜二年九月兵ヲ

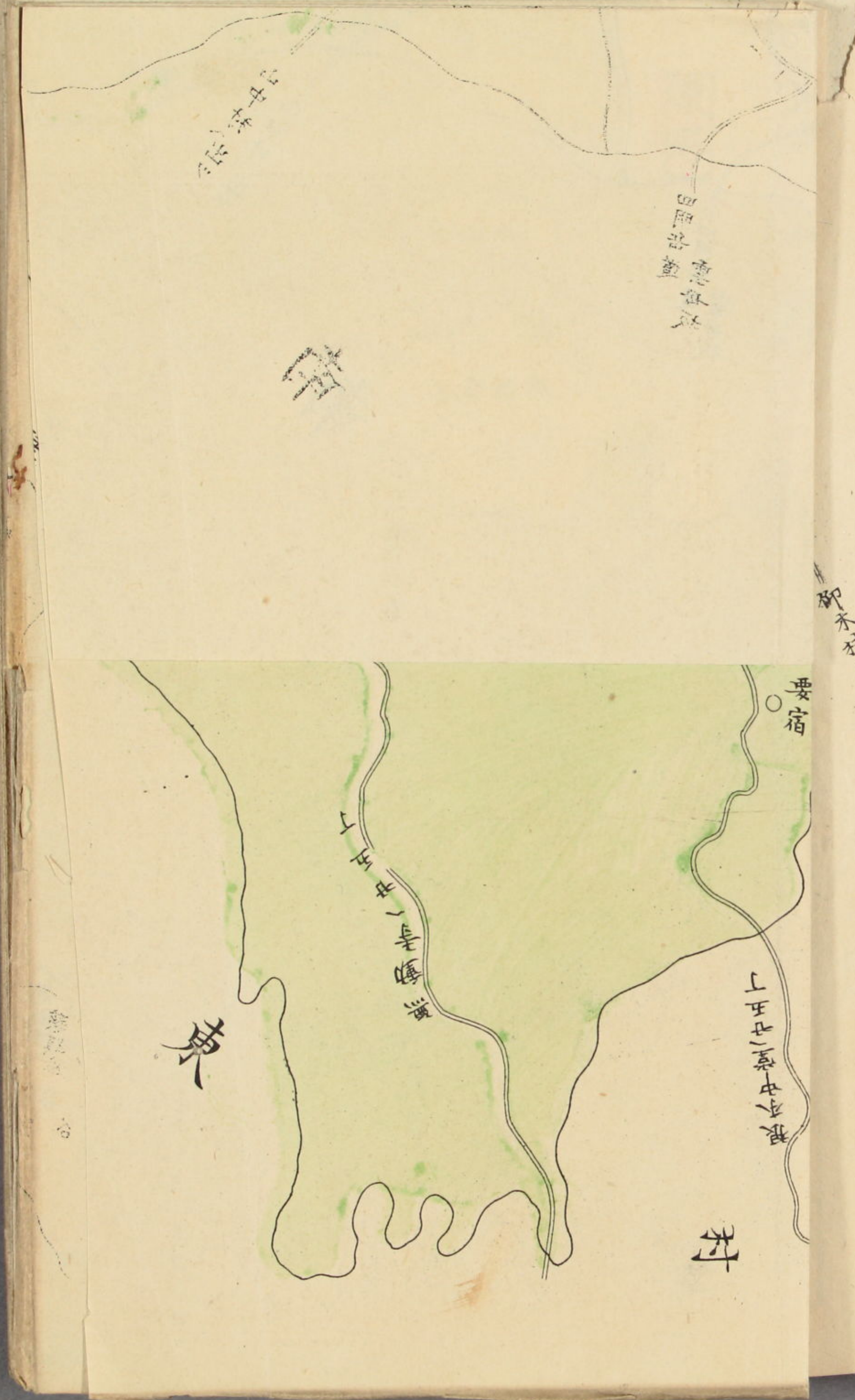
率井テ之レヲ圍ム此役ヤ堂塔多クハ灰燼ニ歸シ僧徒ノ殺戮セラル、モノ舉テ

數フベカラズ寺領亦タ没收セラル天正十二年(三百年前)豊臣秀吉再興ヲ計リ

寺領ヲ寄付ス次テ徳川氏ニ至リ大ニ改造修補スル所アリ堂宇僧房稍々舊觀ニ

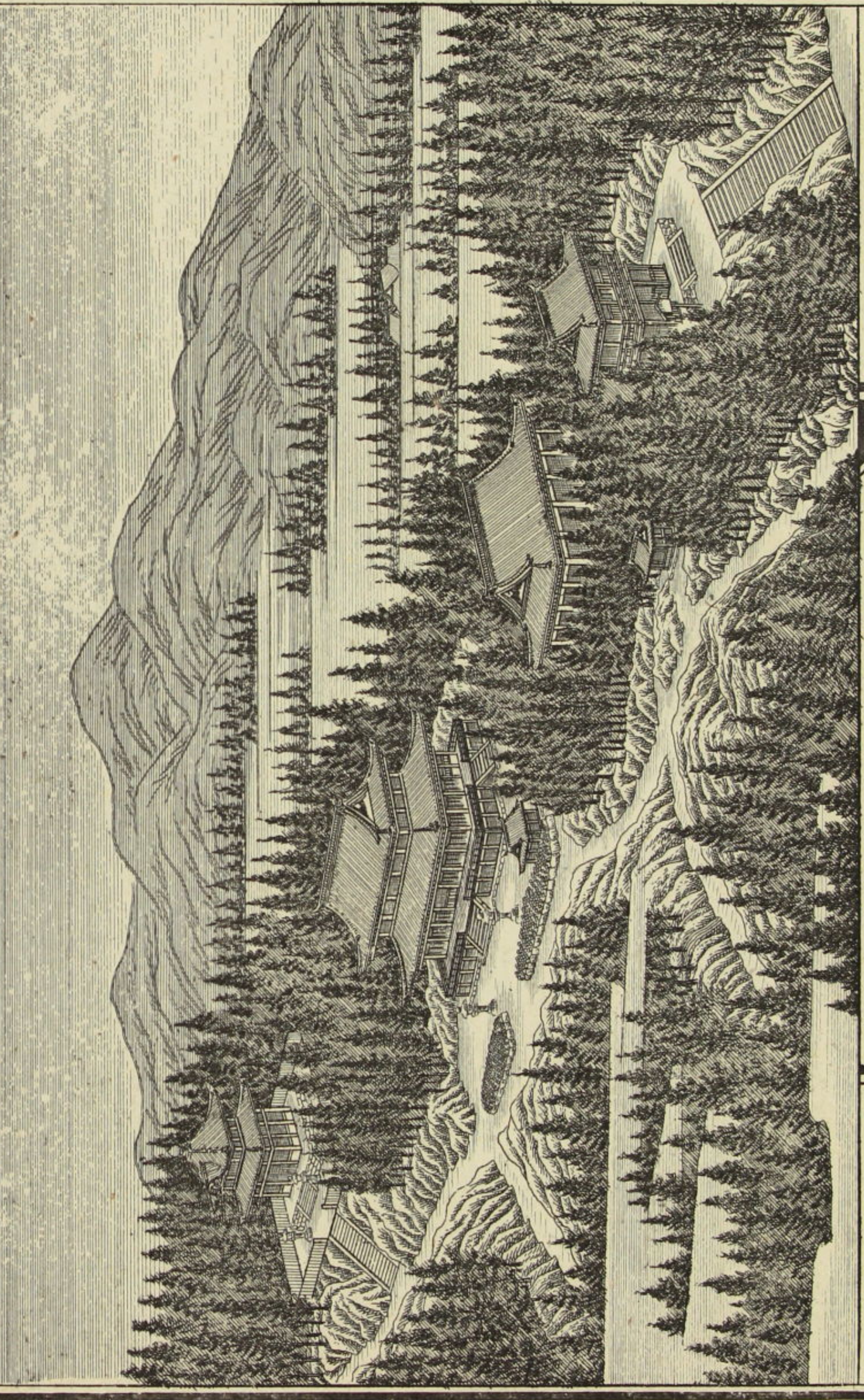
復シ寺領漸ク五千石トナル維新以後境内ノ大半ハ官林トナリ古寺名刹モ空シ

ク頽廢ニ屬スルアリ抑モ此山ハ昔ヨリ東塔西塔横川ノ三谷ニ別ツ



比叡山之景

THE MOUNT OF HIYEI.

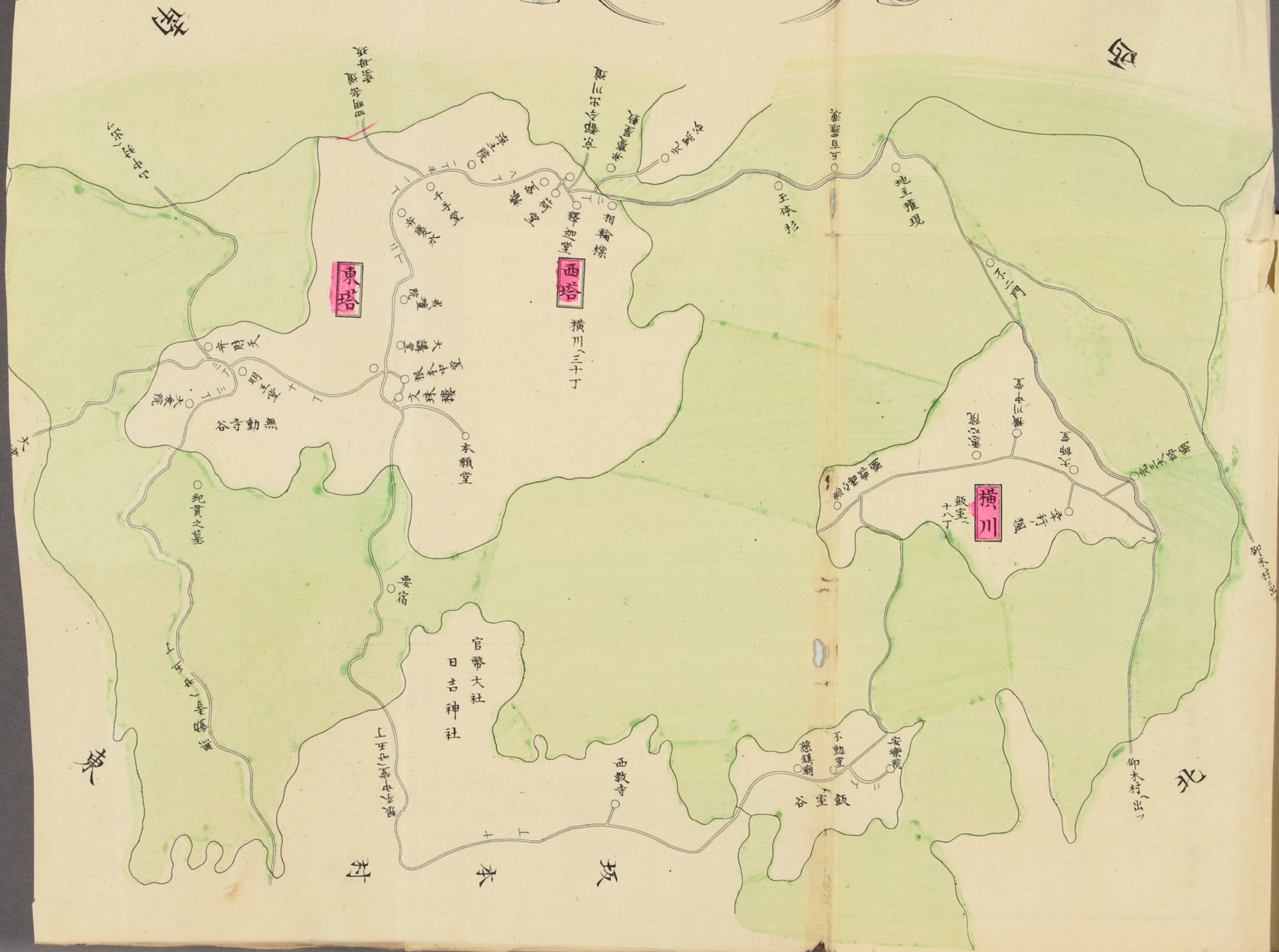


近江名所案内

二十二

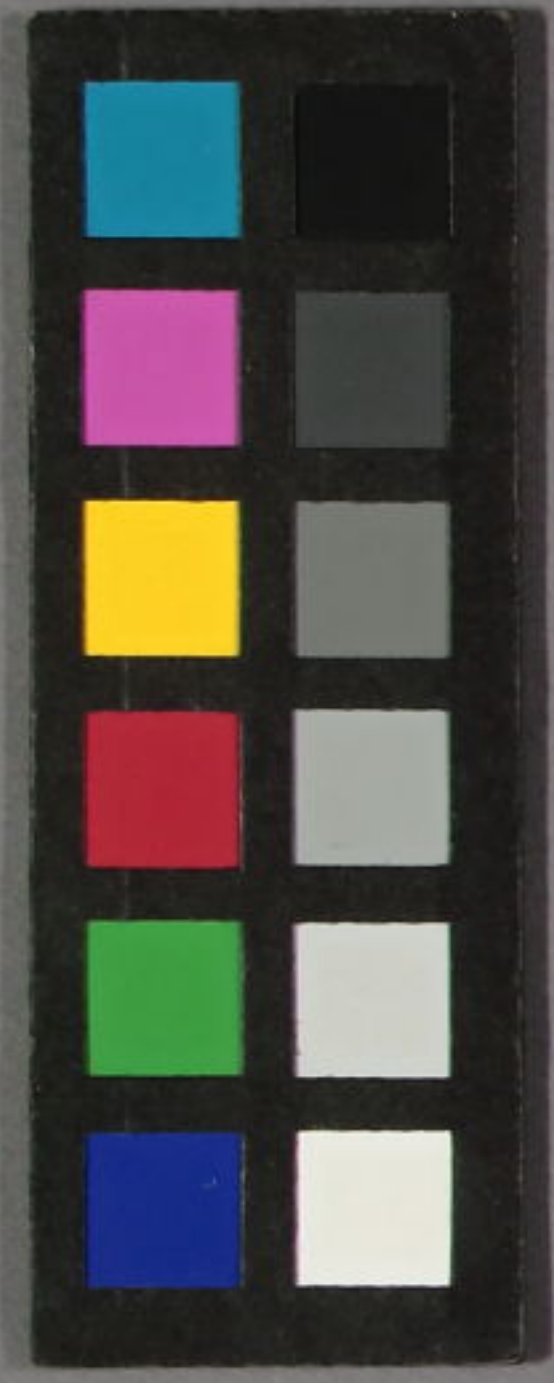
三書堂藏片

比叡山案内畵



比叡山之景

THE MOUNT OF HIYEI.



東塔

要ノ宿ハ休憩所ナリ山尾交接ノ間ヨリ湖上ノ風景ヲ漏ラス其形扇ヲ開クガ如ク而シテ唐崎ノ松恰モ扇要ニ當ル是此名アル所以ナリ

唐崎の松の扇のかみめり漕行船ハ墨繪なるらん

慈鎮和尚

明王堂ハ不動尊ヲ安置ス相應和尚ノ作ナリ

相應堂ハ相應和尚ノ像ヲ祀ル和尚ハ修驗道ヲ立テ山中ノ神社佛閣ヲ巡拜スル

七百日更ニ明王堂ニ詣テ断食七日以テ法ヲ修セシト云フ故ニ今ニ至ルモ其

遺風ヲ慕フモノアリ之レヲ回峯行者ト呼ブ

辨財天祠(無動寺)ハ創立ノ年代詳ナラズト云フ祠ノ傍ラニ靈石アリ昔シ白蛇ノ

出現セシ處ナリト

大乘院ハ慈鎮和尚ノ住セシ處ニシテ有名ナル見真大師蕎麦喰ノ木像ハ此寺ニアリ

麓ヨリ千里此波をかききて枕のめとよ有明の月 慈鎮和尚



根本一乘止觀院ハ初メ比叡山寺ト号シ又大寺ト名ク傳教大師登山結庵ノ四年  
 即千延曆七年(凡千百年前)桓武天皇ノ御願ニ依リ創立シタルモノニテ弘仁十  
 四年(凡千七十年前)勅シテ寺額ヲ賜ヒ延曆寺ト名ケ鎮護國家ノ靈場トス堂宇ノ  
 構造仁和以前ハ藥師堂文殊堂經藏ノ三字各棟ヲ異ニシ藥師堂其中間ニ位セ  
 シヲ以テ俗ニ之レヲ中堂ト呼ブ祀ル所ノ藥師佛ハ傳教大師ノ作ニテ堂内ノ  
 常燈亦タ大師ノ自ラ點シタルモノナリ其時ノ歌ニ曰ク明け後の佛比御世  
 までも光り傳へよ法の燈火ト承平中火災アリ幾クモナクシテ再建セシガ元  
 龜中復々信長ノ燒ク所トナリ今ノ堂宇ハ寛文七年(凡二百三十年前)ニ建ツルモ  
 ノナリト云フ堂前ノ石臺ニ唐竹ヲ栽ヘ樓門ノ傍ニ唐木アリ 櫻(字典ニ櫻ハ)ト稱  
 ス  
 大講堂ハ古ヨリ毎歲ニ季大法會ヲ修セシ處ニシテ淳和天皇天長元年(凡千七  
 ノ建立ナリ本尊ハ大日如來ヲ安置シ又桓武天皇ノ聖像ヲ壇上ニ奉ス  
 戒壇院ハ義真和尚ノ建立ニシテ六十餘洲ノ僧徒大乘ノ妙戒ヲ受ント欲スルモノ

皆此壇ニ上ルナリ古ヘハ其構造宏壯ニシテ中門講堂回廊等モアリシト云フ  
 本願堂ハ傳教大師登山ノ始メ草庵ヲ結ビタルトコロナリ  
 千手水ハ千手堂ノ關伽井ナルヲ以テ名クルナリ昔シ辨慶此井水ヲ汲ミ沐浴シ  
 テ勇ヲ千手堂ニ祈ル故ニ辨慶水トモ稱ス主人至テ掬シテ之レヲ飲マハ自ラ勇氣  
 ヲ増スト以アルカナ  
 淨土院ハ阿弥陀如來ヲ安置ス故ニ名ク又傳教大師ノ廟アリ大師ハ寂澄ト稱シ  
 山麓三津ガ濱(坂本村)ニ生ル資性聰敏幼ニシテ學ヲ好ミ才藝衆ニ卓絶ス年十  
 九ニシテ此山ニ登リ苦學殆ンド二十年後千入唐シテ愈其奧義ヲ究メ終ニ天  
 台ノ開祖ト爲ル  
 四明嶽ハ此山ノ絶頂ヲ稱スルモノニテ坂本村ヨリ一里八丁餘登臨スレハ琵琶  
 湖漫々トシテ其東麓ヲ浸シ江州ノ風光衽席ノ下ニ集リ眺望頗ル快豁ナリ更  
 ニ眸ヲ轉ズレハ京都ノ人烟擲齒ノ如ク淀河ハ宛トシテ一條ノ白布ヲ晒スニ  
 似タリ往昔平將門藤原純友ト同ジク此處ニ登リ俯シテ皇城ヲ瞰ミ云フ壯シ

ナル武大夫當サニ此ニ宅ルベカラサランヤト遂ニ反ヲ謀リシハ歴史上著  
名ノ事ナリトス

叡南ハ四明嶽ノ東嶺ヲ云フ智證大師ノ廟アリ(大師ノ畧傳載セテ)  
三井寺ノ部ニアリ

西塔 土地山城國ニ属スレ凡同シク延曆寺ノ寺域  
ナルヲ以テ來遊者ノ便ヲ計リ記述スルト為セリ

椿堂ハ昔シ聖德太子椿ノ杖ヲ立テ玉ヒシニ其杖枝葉ヲ生ジタルヲ以テ名クト  
或ハ云フ太子帶ブル所ノ如意輪觀音ヲ椿ノ枝ニ懸ク後其樹ヲ用井此堂ヲ建

ツ故ニ名クト両説何レカ是ナルヲ知ラス

常行堂法華堂ハ両堂ノ間ニ渡リ廊下アリテ恰モ棒ニテ物ヲ荷フガ如シ俗ニ荷

堂ト云フ

惠亮堂ハ惠亮和尚獨股ヲ以テ自ら頭腦ヲ破リ爐火ニ投ジテ清和天皇ノ御即位

ヲ祈禱セシ處ナリ

釋迦堂ハ承和年中(凡ソ一千)ノ建立ニシテ本尊ノ釋迦如來ハ傳教大師ノ作ナリト

云フ抑モ此堂ハ西塔ノ本堂ニシテ土地ヲ香爐ノ岡ト云ヒ老樹森々盛夏ノ候ト

虫氏猶ホ寒キヲ覺フ  
護法石ハ釋迦堂ノ軒下ニ在リ昔シ淨藏修入ノ兩法師法カヲ角ベテ遂ニ兩片ト

セシモノナリト

辨慶屋敷 辨慶曾テ此處ニ住ス故ニ西塔武藏坊辨慶ト稱セシナリ

相輪檜ハ弘仁十一年ニ作リタルモノニテ檜中ニ經卷ヲ納ム

黒谷ハ僧源空ノ住セシ處ナリ源空ハ法然上人ト稱シ淨土宗ノ開祖ナリ

三本杉ハ回峯行者皇城ニ向テ玉躰安穩ヲ祈リシ處ナリ故ニ玉躰杉ト云フ

横川

横川中堂ハ首楞嚴院ト号ク天長六年(凡ク六十年前)慈覺大師ノ草創ニシテ本尊ハ

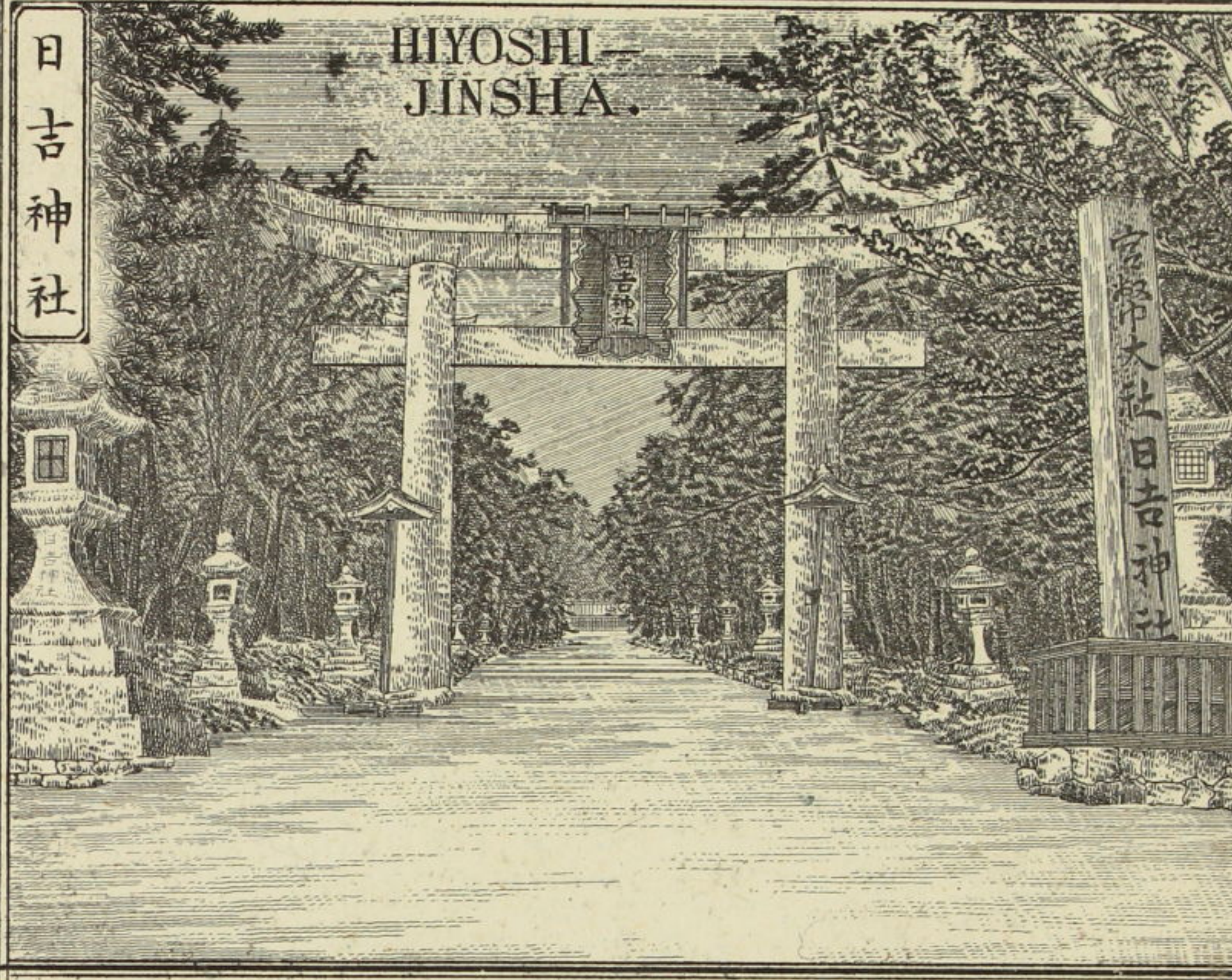
聖觀音ヲ安置ス

慈惠大師廟 大師ハ良源ト稱ス當國東淺井郡ノ人ナリ容貌頗ル猛々其謚号ハ

慈惠ナルモ正月三日ノ入寂ナルヲ以テ世ニ元三大師ト稱ルナリ

四季講堂ハ毎歳四季法華八講ヲ執行ス故ニ名ク本尊ハ元三大師ヲ祀ル依テ又





日吉神社

大師堂トモ呼ヨ  
 惠心僧都廟 惠心ハ大和國ノ人ニシ  
 テ源信ト称シ慈惠ヲ師トス一乘要  
 訣往生要集等ノ著述アリ  
 官弊大社日吉神社ハ比叡山麓坂本村  
 在リ大山咋神ヲ祭ル是即千本社(旧  
 大)也大神神社(旧名宇佐宮)牛尾  
 宮(旧名客人宮樹下宮)三宮ノ六  
 攝社ヲ始メ其他ノ末社ヲ合算セバ當  
 二百有餘アリ境内ハ老松古杉深ク  
 茂リ粧璜朱欄其間ニ隱見シ神威自  
 ラ儼然タリ古叡山ノ僧徒當社ノ神輿  
 ヲ昇ギ關ニ敷訴セシ一歴史上往々見

ル所ニシテ往古ハ総テ山門ノ管攝ニ属ス故ヲ以テ信長ノ叡山ヲ燔クヤ共ニ其  
 災ヲ被リ堂塔皆烏有ニ歸ス今ノ堂宇ハ豊臣氏ノ再興ヲ基礎トシ徳川氏ノ修造  
 スル所ナリト云フ祭禮ハ毎歲四月十四日ニシテ神輿七基ヲ出シ甲士ニ扮装シ  
 テ供奉スルモノ百餘人山門ノ盛ナル頃ハ主トシテ法師ノ関與セシモノニテ  
 乱暴ノ徒甚ダ多ク濫リニ人ヲ殺傷セシ一屢々之レアリ世ニ坂本ノ血祭ト呼ブ  
 ハ王子山ハ比叡山脈ノ一峯ニシテ牛尾宮三宮ノ兩祠堂其半腹ニ在リ登臨スレ  
 バ鏡三上ノ諸山湖ヲ隔テ屹立シ唐崎ノ松堅田ノ浦共ニ一眸ノ中ニ在リ日  
 吉祭禮ニハ神輿ニ基ヲ昇ギテ此坂ヲ下ル危險言フ可カラズ觀ルモノヲシテ思  
 ハズ汗ヲ握ラシム  
 日吉馬場ハ石鳥居ヨリ橋殿迄ヲ云フ櫻樹枝ヲ交ヘ花時ニ至レバ爛熳雲ノ如シ  
 橋殿(古ハ波止)ハ溪流清駛架スルニ堅牢ナル石橋ヲ以テス故ニ名クト溪ニ浴ヒ  
 楓樹アリ歳々添霜ノ候ニ至レバ恰モ錦雲紅靄ノ如ク詞人墨客杖ヲ曳クモノ  
 甚ダ多シ

滋賀院ハ東叡山寛永寺ノ里坊ニテ所謂日光輪王寺宮ノ別院ナリシガ近時之レヲ

延曆寺トナス

慈眼大師廟ハ滋賀院ノ南東照宮ノ傍ラニアリ大師ハ陸奥ノ人ニシテ南光坊天海

ト称ス徳川家康崇信淺カラサリシト云フ

西教寺ハ真盛派ノ本山ナリ境内ニ明智光秀ノ墓アリ蓋シ光秀ノ従弟光春坂本城

陥ルニ及ンデ遺財寄贈ノ故ヲ以テ此處ニ葬リシモノナランカ

來迎寺ハ比叡辻村ニアリ所藏ノ什寶甚ダ多シ又此寺ニ森可成ノ墓アリ可成ハ始

メ三左衛門ト称シ信長ノ命ヲ受ケ坂本ヲ守ル元龜元年九月朝倉淺井兵ヲ合セ

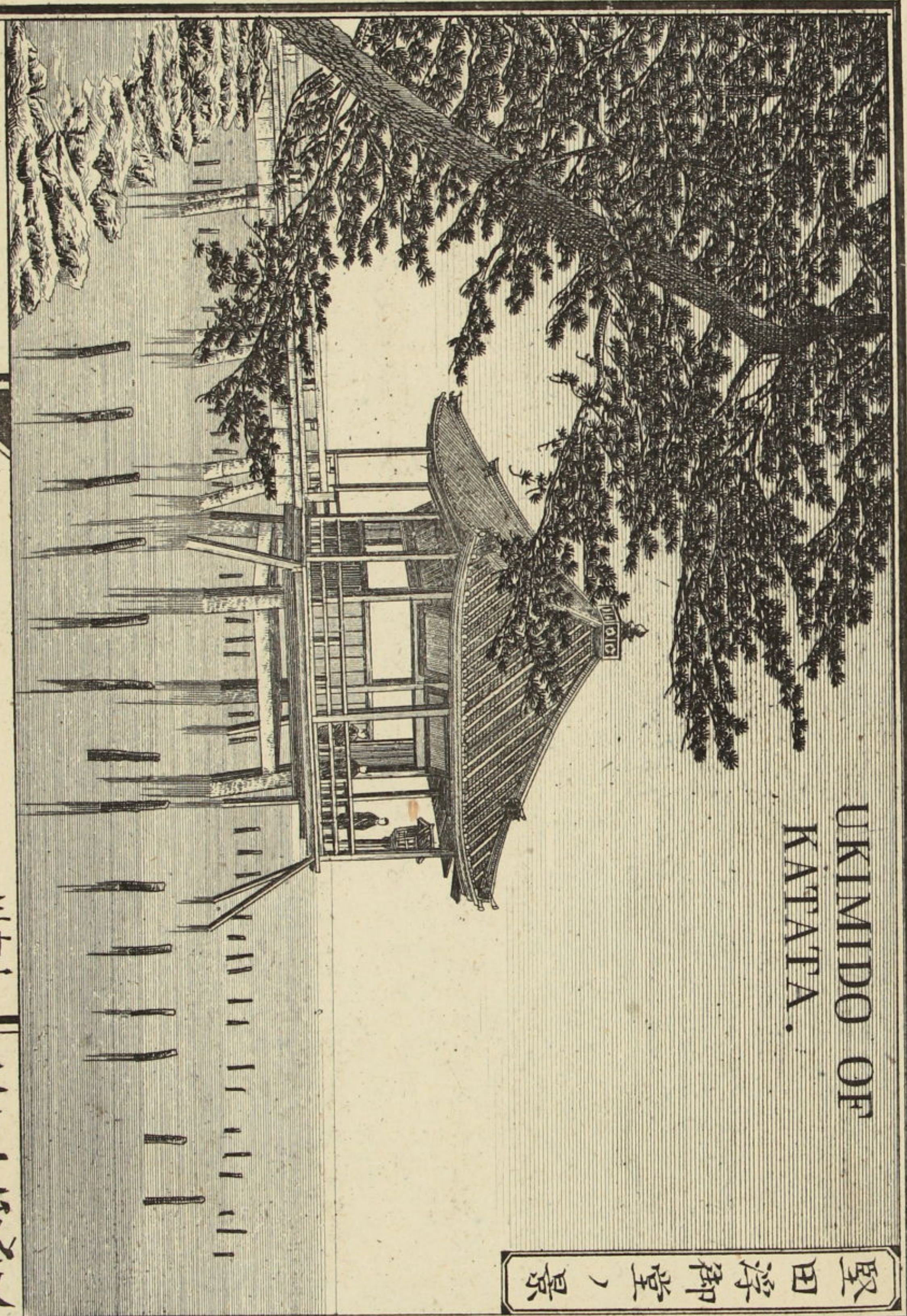
テ來リ攻ム可成出テ戦ヒ之レニ死ス

堅田ハ野洲崎ニ相對シ其間僅ニ十八町餘琵琶湖中ノ瀬戸トモ称スベシ平治ノ乱

源義朝叔祖義隆ノ首ヲ見テ八幡公ノ遺體獨リ此人アリ而シテ今ヤ此ノ如シト

嘆息セシハ則チ此處ナリ又此村ニ落雁ト名ケ名物ノ干菓子ヲ賣ル

勾當内侍墓 内侍ハ義貞ノ妻ナリ義貞ノ戦死スルヤ身ヲ此浦ニ投ジテ死スト



UKIMIDO OF KATSUTA.

堅田御堂ノ歌

云フ  
 浮御堂ハ惠心僧都ノ建立ニテ海門山満月寺ト号ス湖中ニ出シテ棧橋ヲ作ル十  
 數間其端ニ一小堂ヲ建テ千體佛ヲ安ス遠ク之レヲ望メハ恰モ水上ニ浮ブガ  
 如ク雅趣幽致是レヲ近江八景ノ一トス

鎖<sup>シヨウ</sup>何<sup>ナニ</sup>けて月<sup>ツキ</sup>さ<sup>サ</sup>入<sup>イレ</sup>浮御堂<sup>ウキミドウ</sup> 七<sup>ナナ</sup>せ<sup>セ</sup>夜<sup>ヤ</sup>

何物翻々群碧澗非雲非霧更難辨數行文字落堅田。

分外認来沙上雁。 菅玄洞

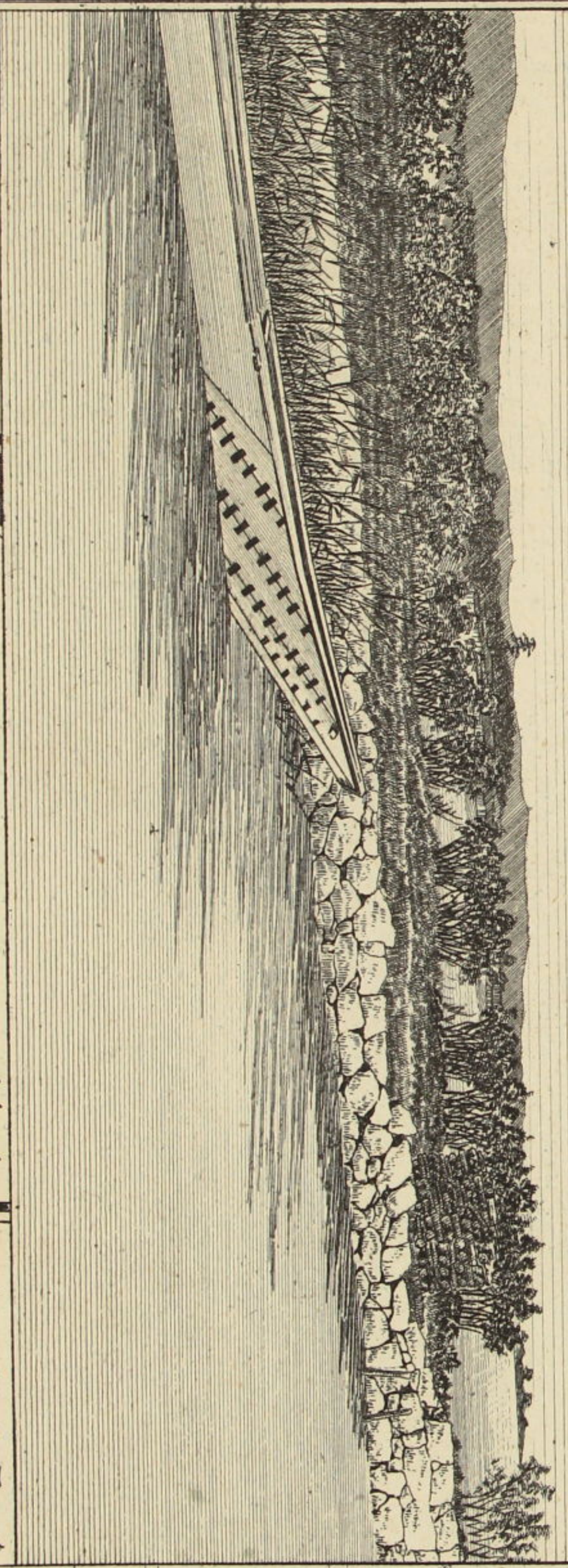
比良山ハ滋賀高島兩郡ニ跨リ山脈蜿蜒々恰モ屏障ヲ列ル如ク其寂モ高キ處ハ直立  
 三千百六十尺アリ頂上ハ春晚尚雪ヲ戴キ皚々トシテ大ニ湖上ノ眺矚ヲ加フ即  
 チ近江八景中比良ノ暮雪ト称スル是ナリ

峯<sup>ミネ</sup>あま<sup>あま</sup>こ<sup>こ</sup>さ<sup>さ</sup>へ<sup>へ</sup>越路<sup>コシジ</sup>ま<sup>ま</sup>づ<sup>づ</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>堅田<sup>カタハ</sup>よ<sup>よ</sup>あ<sup>あ</sup>び<sup>び</sup>た<sup>た</sup>落<sup>ツク</sup>る<sup>る</sup>雁<sup>カリ</sup>か<sup>か</sup>藤原信尹  
 風散雪花如碎珠比良零影映琵琶晚来滕六最憐惜。  
 老去山靈是白鬚。

林羅山

比良山、景

HIRA MAUNTAIN.



近江名所

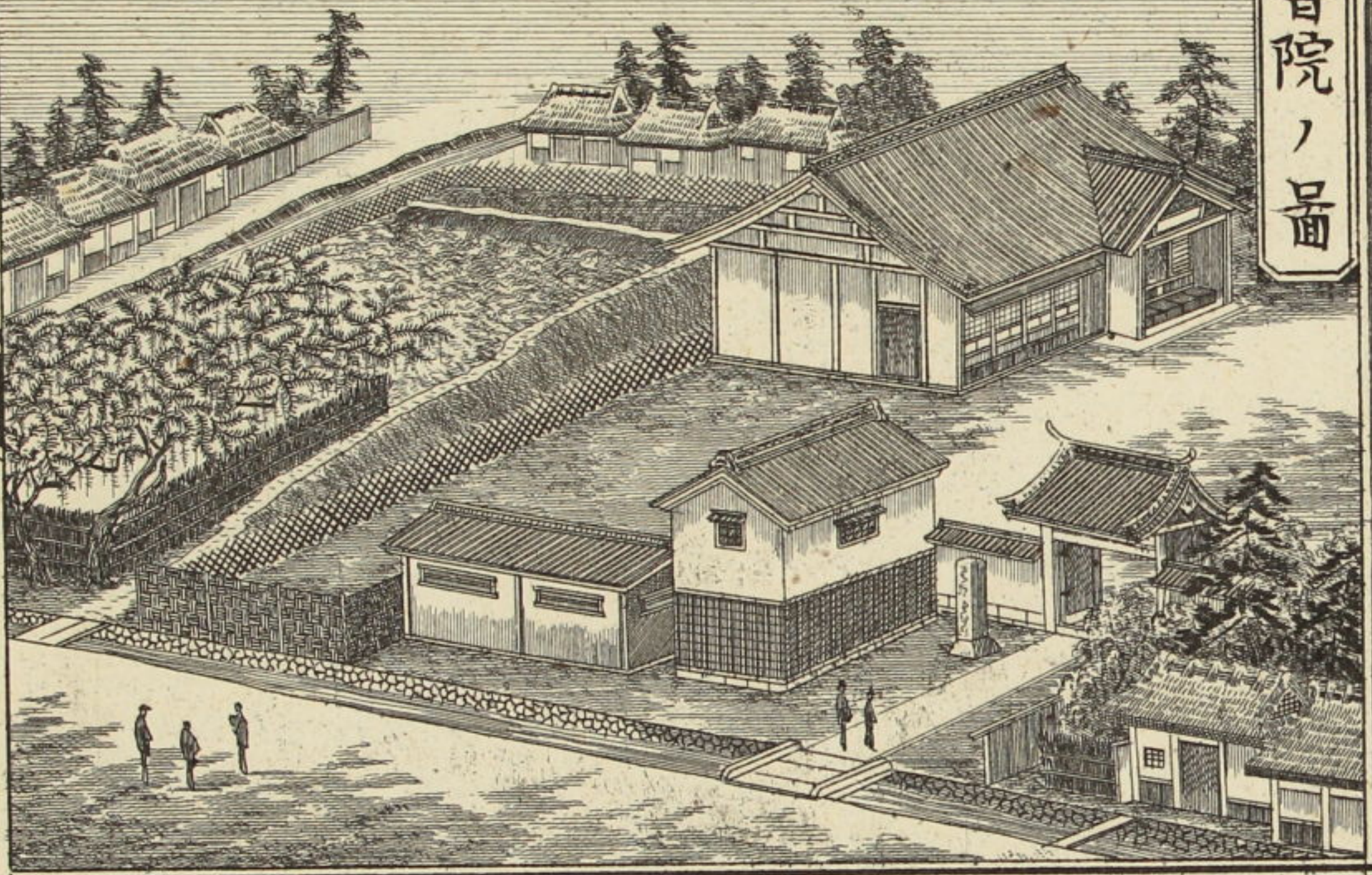
雪々々々比良の高根此夕暮の花のさかり過るるの各 藤原信尹  
 白鬚神社ハ其創立頗ル古ク今ヲ去ル凡ソ一千九百年即チ垂仁天皇ノ御代ナリト  
 云フ世人此神ヲ祈レバ長壽ヲ得ルト称シ詣者多シ

### 高島郡

藤樹書院ハ上小川村ニ在リ中江藤樹先生ノ講堂ナリ先生字惟命與右衛門ト称シ  
 藤樹ト号ス又顧軒トモ号ス慶長十三年ニ生レ早ク父ヲ喪ヒ其祖ニ隨テ大洲(伊  
 豫國)ニ在リ日夜勤學怠ラズ寛永九年(先生時ニ)大洲侯新ニ其弟ヲ封ジ先生ヲシテ  
 コレニ事ヘシム先生母ノ孝養心ニ任セザルヲ憂ヒ幾回之レヲ迎ヘント欲スル  
 毛母聽カス已テ得ズ情ヲ陳テ歸養ヲ乞フ亦タ允サレズ遂ニ書ヲ遺シ官ヲ棄テ  
 去リ爾後復ビ出テ仕フルナシ先生ハ常ニ陽明學ヲ信ジ實踐躬行ヲ先キニス故  
 ニ近邑皆其徳ニ薰陶セラレ遠ク笈ヲ負フテ来リ學ブモノ多ク門下ニ熊澤蕃山  
 ノ如キ人物ヲ出スニ至ル慶安元年(凡ソ二百五十年前)八月廿五日ニ卒ス年四十一世敬仰

### THE PARLOUR OF TOJŪ.

### 藤樹書院ノ畵



シテ近江聖人ト呼ブ今講堂ノ傍ラ  
 ニアル藤ハ先生ノ愛樹ナリト云フ  
 又講堂ハ近時火災ニ罹リ再造セシ  
 モノニテ堂内ニハ先生ノ位牌ヲ祀  
 リ筮竹算木等ヲ藏ス其他先生ノ遺  
 墨ハ素ヨリ時服膳碗等ニ至ルマデ  
 什宝トシテ存スルモノ甚ダ多シ  
 江西書院聞名久五十年前訓義方  
 今日始来茲誦地古藤影掩舊草堂  
 伊藤東涯  
 書堂已閱百星霜私淑吾来進瓣香  
 遺愛藤棚荒益古孤標松幹老逾蒼  
 氣常和處春長燠月正霽時風亦光

今尚士民敦禮讓。入疆不問識君鄉。

佐藤一齋

栗太郡

官幣中社建部神社ハ神領村ニ在リ日本武尊外二神ヲ祭ル景行天皇ノ御世ニ創立  
 セルモノニテ爾來兵燹ニ罹ルテ數回今ノ堂宇ハ文明年中(凡ソ四十年前)ニ建ツル  
 モノナリト云フ

野路玉川ハ瀨田橋ヲ過ギ草津ニ赴ク井道左ニ小池アリ石柱一基僅ニ其跡ヲ認ム  
 ルノミ古ヘハ萩ノ名所ニテ俊賴ノ歌アリ

阿ももこん野路の玉川萩あえて色あふ波は月やどりあり

矢橋ノ浦ハ近江八景ノ一ナリ往時ハ大津へ渡航ノ要津ニテ湖上一里餘陸行シテ  
 瀨田橋ヲ廻レバ凡ソ三里アリ風帆ノ來往織ルガ如ク頗ル昌盛ノ地ナリシト云  
 フ



近江名所案内

真帆引て矢橋にかへる船もいま打出の濱をあとの追風

藤原信尹

月弓遙掛矢橋上湖鏡晴奇膳所中詩客畫工猶未盡千秋万里一般風菅玄洞

草津ハ湖東關西兩鐵道ノ岐ル處ナリ此村ノ名物ニ焼ガ餅ト稱スルモノアリ昔

時徳川家康此地ヲ過ガリ一小店ニ息ヒ老婆ノ鬻グ餅ヲ食ヒ佳味ヲ賞シタルヨ

リ其名ヲ著スニ至レルナリト

千代の春契るや尉と焼ガ餅

むせ成

甲賀郡

雲照山妙感寺ハ三雲村ニアリ中納言藤房隱遁ノ處ナリト云フ國史ヲ按スルニ藤

房ハ後醍醐帝ニ事ヘ人ト為リ精忠卓識屢々政治ノ得失ヲ論ズルモ聴カレズ遂

ニ官ヲ棄テ去リ終ル所ヲ知ラズト蓋シ其京師ヲ去ルヤ暫ク東西ニ隱レタリシモ世

尚ホ知ラシキ懼レ來テ此地ニ住ミ後チ復々諸國ヲ行脚シ西海ニ溺死セシモノト藤房此地ニ函栖中歌アリ

世此うさをよそふ三雲のくも深く照る月影や山住の友

水口ハ舊加藤氏ノ居城ニシテ二万五千石ヲ食ス又別ニ長東正家ノ城址アリ正家

ハ豊臣氏ニ仕ヘ關ヶ原役敗ブルニ及ンテ東軍ノ為メニ攻メラレ自殺ス

藤細工ハ此村ノ名産ナリ世ニ水口細工ト呼ブ

野洲郡

守山ハ古歌ニ多ク詠シタル處ナリ又歴史ヲ讀ムニ平治ノ乱源頼朝年甫メテ十三

父義朝ニ從ヒ東走セントシ馬上ニ睡テ後ル偶々土人ノ襲ヒ來ルアリ頼朝刀ヲ

抜テ二人ヲ斬ルト即チ此處ナリ

守山の峯の紅葉も散まらりもつたに色乃をくく有哉 紀貫之

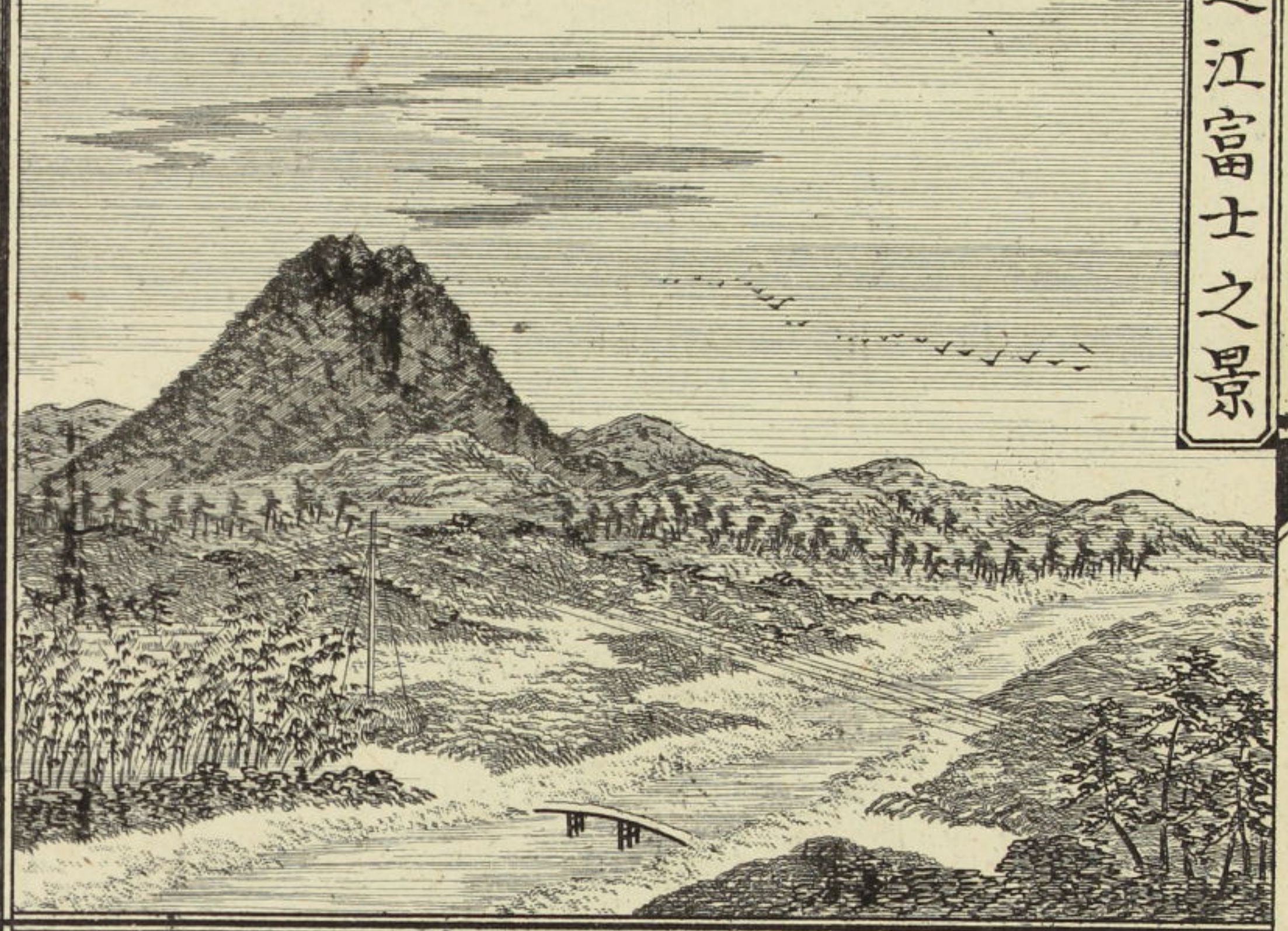
あの頃も月をいよこまる山の下葉残らぬ木から一此風 参議雅經

野洲川ハ上流ヲ横田川ト云フ架橋長二百六十間アリ又此邊ハ世ニ所謂野洲晒ト

稱スル布ノ産地ニシテ川ノ近傍ニ於テ晒セルモノ即チ是ナリ

杳ある三上のとけを目よらけてゆく瀬渡りぬやすの川波 後京極攝政

THE MIKAMI MAUNTAIN.



シヒラネモリノハカ オホシノハラ サシユウ  
 平宗盛墓ハ大篠原ノ山中ニアリ 壇  
 浦ノ役平宗盛捕ヘラレ 鎌倉ニ至  
 ル 頼朝自殺ヲ諷ス 宗盛其意ヲ曉  
 ラズ 依テ又京師ニ護送セラレン  
 トシ 途此地ニ於テ斬ラル  
 ミカミヤマ ミカミムラ  
 三上山ハ三上村ニアリ 俗ニ蜈蚣山  
 ト云フ 其形富士ニ似タルヲ以テ  
 又近江富士トモ呼ブ 山腹ニ妙見  
 堂アリ

淨助親王  
 雲晴る三上の山の秋風よき  
 波遠くいつる月々等

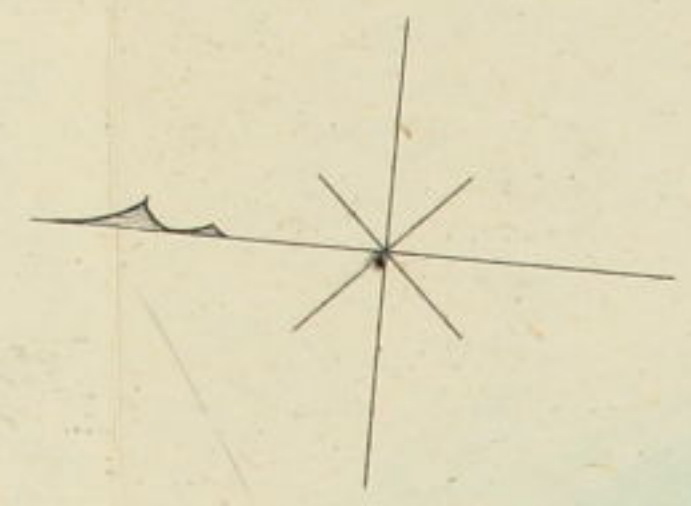
讀人あきば

近江

正江中七  
 御池橋

御池橋

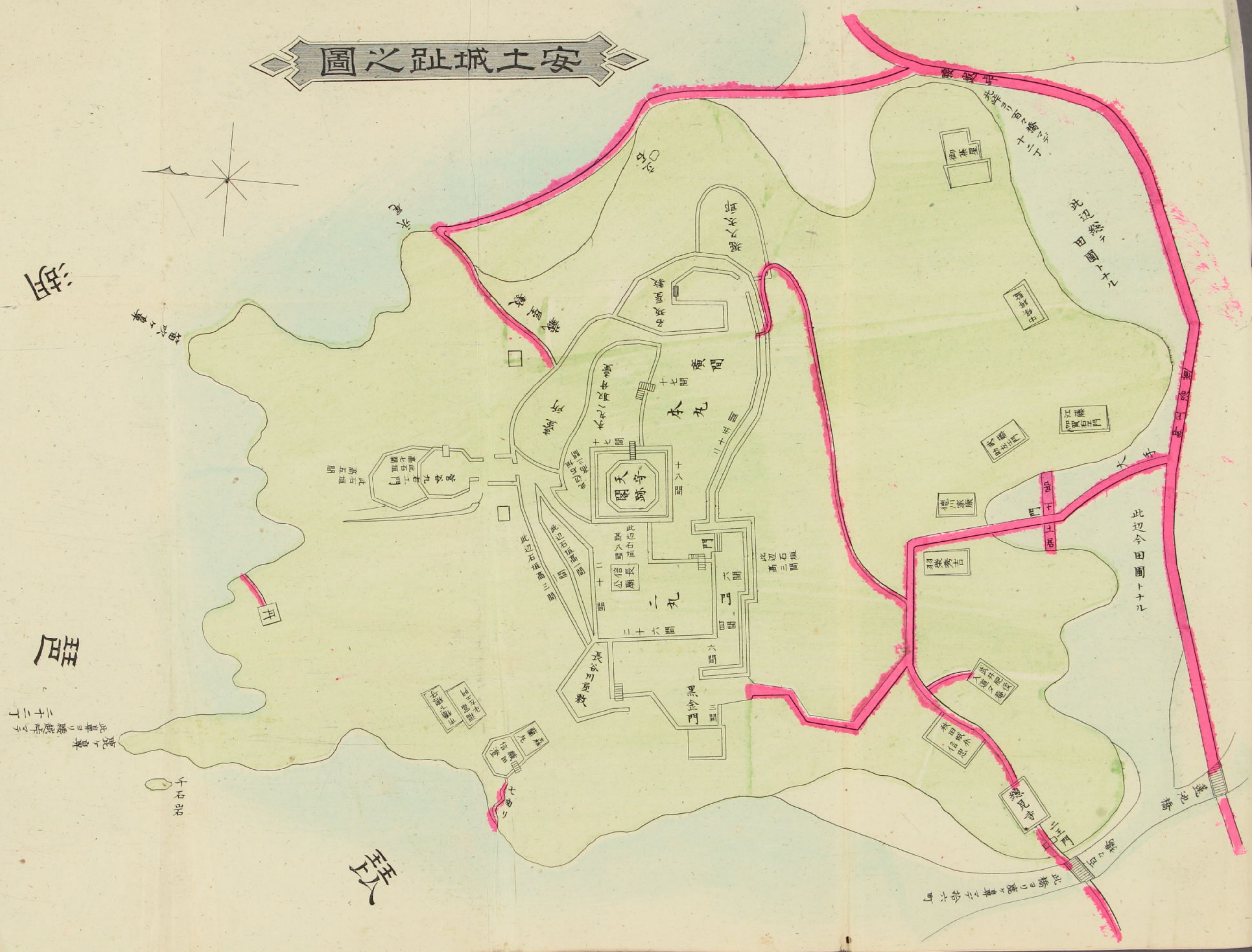
安土城跡之圖



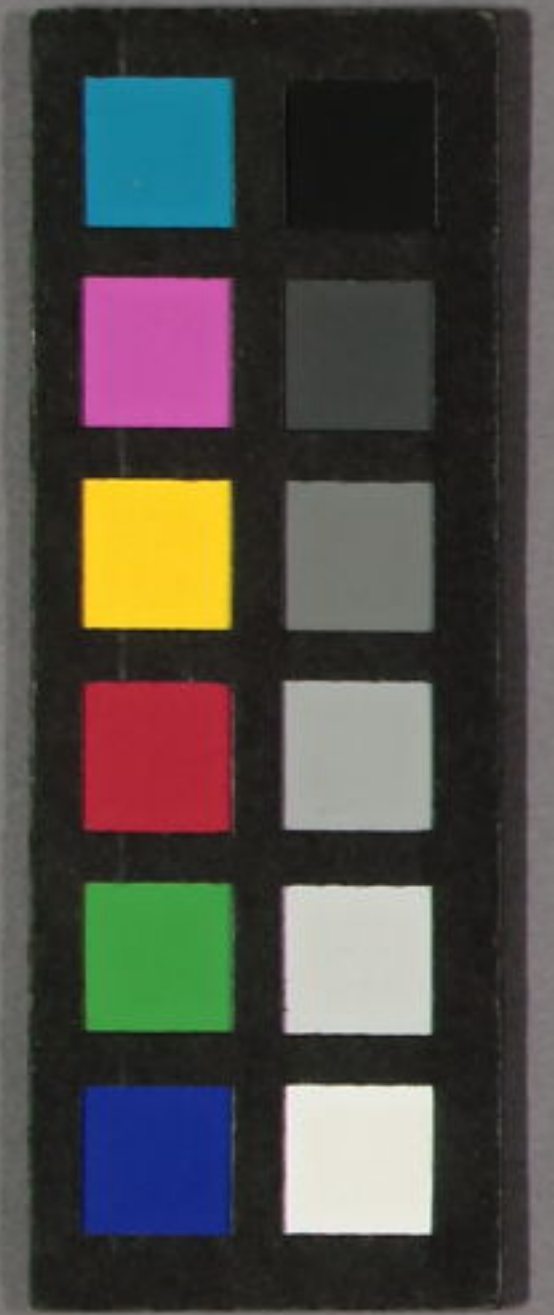
湖

田

野



8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6



讀人志



志賀浦シガウラや時雨シグレて渡る浮雲ウキクモは三上ミカミの山ヤマぞ半ナカバかくるゝ

蒲生郡

鏡村カミミムラハ牛若丸ウシワカマルクヲ出テ陸奥ムツニ走ルワシトキ元服ゲンブクシテ自ラミヅカ九郎義經クロウヨシツネト命名ナツケセシ處ニシテ今尚義經ノ盟イマナホヨシツネ歎チヨウウツニ汲ミタル古井フルイドヲ存シ里人トコロモノ之レヲ御手洗オチヨウツノ水ト呼ブ又此村ノ南ニ屹ムラケルヲ鏡山カミヤマト云ヒ多ク古歌コカニ詠エイセシヲ見ル

鏡山カミヤマのざ立シテよりて見て行かんミと経ぬヘ身ミの老ヲヒやとめとと 大伴黒主  
花の色ハナをイロころしとめハナ鏡山カミヤマ春ハルより後ノチのミかげミや見ミゆるミやく 坂上是則

水葦ミヅグサノ岡ヲカハ長命寺チヤウメイジノ西南十八町牧村マキムラニ属スル一小島チイサナシマニシテ岡山ヨカヤマト云フ湖山ウミヤマノ風景絶佳キハシタガヒシキナリ昔時ムカシ巨勢セノ金岡カナノカ来テ此景コノケシキヲ寫サントシ忽タチマチ筆フデヲ投ジトウ曰クイハ豈能アニヨク筆ノ及オヨブ所トコロナランヤト

一 金カリガ子の寒サムくミヅグサより水葦ミヅグサの岡ヲカの葛葉クズバハ色付イロツキよりり 赤石人丸



祓て何くす人やなまらん水壘の岳のやうに秋の夜の月

為定

八幡ハ戸數千六百餘アリ市街ノ北ニ聳ユルヲ比牟禮山又ハ幡山ト稱シ豊臣秀次ノ城趾ナリ秀次ハ秀吉ノ義子ニシテ安土落城ノ後此處ニ城キ當國ヲ統領ス秀

次時ニ官中納言タリ故ニ近江中納言ト稱ス

八幡神社ハ初メ比牟禮山上ニアリシヲ此處ニ遷シタルモノナリ祭祀ハ毎年四月卯ノ日ヨリ午ノ日マデニシテ種々ノ練物ヲ曳出シ夜ニ至レバ火ヲ放テ之

レヲ燒ク其状實ニ壯快ナリ

奥ノ島ハ湖中島嶼ノ中ニ於テ取モ大キク島中ニ六ヶ村アリ島ノ北端ハ伊崎ト稱

シ不動堂アリ西角ヲ長命寺トス堂宇半腹ニ在リ觀世音ヲ祀ル西國三十三所ノ

一靈場ニシテ近ク沖島ト相對シ兩島ノ間風浪常ニ穩カニ漁舟点々恰モ木葉ヲ

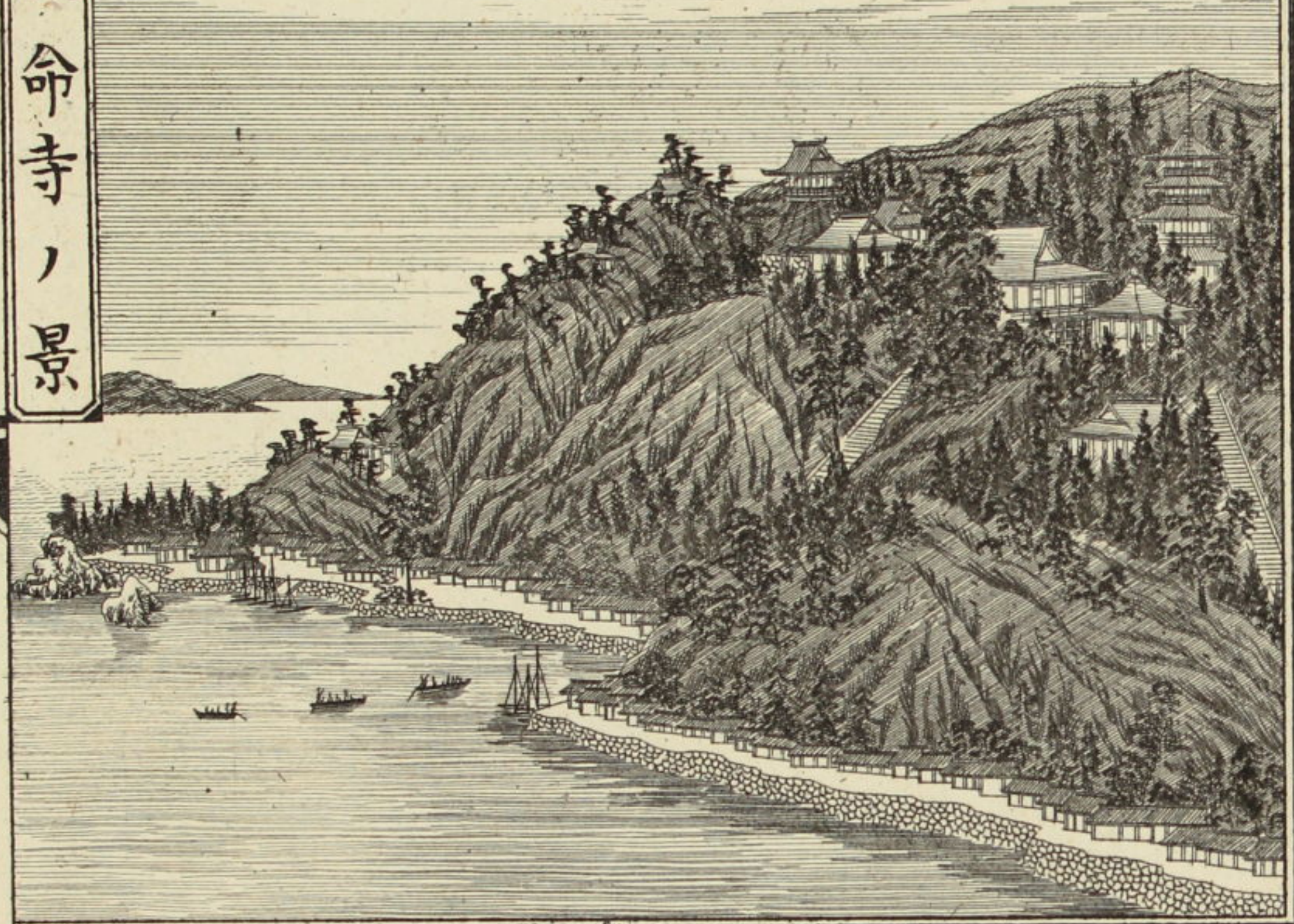
散スガ如ク好景一々名状ニ暇アラズ

沖ノ島ハ奥ノ島ノ北五十町ニ在リ周廻凡ソ一里島中ノ村落ヲ沖ノ島村ト名ケ七

十餘戸アリ

CHOMEIJI.

長命寺ノ景



安土山ハ周回一里十四町高二町余

觀音寺山其東ニアリ西北ノ二方

琵琶湖中ニ突出ス天正四年織田

信長城ヲ此山ニ築キ七層ノ天主

閣ヲ作ル幾クモナクシテ本能寺

ノ變アリ此城亦々光秀ノ奪フ處

トナリ大厦高樓モ忽チ變ジテ焦

土トナル實ニ天正十一年六月十

四日ナリ今信長廟ノアル處ハ舊

ニノ丸ニシテ四天王ノ墳其下ニ

アリ諸將ノ邸址ハ山麓ヲ繞リ天

主閣ノ跡尚依然タリ大手ハ山ノ

南ナリシモ現時ハ僅ニ一小徑ヲ

通ズルノミ外濠亦田圃トナル處多シ傳ヘ云フ山下ノ村落豊浦ハ往古昌盛ノ市街ナリシモ豊臣秀次ハ幡城ヲ築クニ及ンテ漸ク彼ノ地ニ移住セルナリト  
 総見寺ハ遠見山ト号ス信長ノ從弟正仲禪師ノ開基ニシテ結構壯麗ナリシモ嘉永七年火災ニ罹リ僅ニ寶塔ニ王門等ヲ存スルノミ  
 觀音寺山ハ織山トモ云フ石寺村ヨリ登路凡ソ半里觀世音ヲ祀ル抑モ此山ハ佐々木氏十八世四百餘年間國政ヲ執リタル所ニシテ永祿十一年信長ノ為メニ亡サレ城陷ル殘礎今尚存ス

### 神壽郡

五箇莊ハ昔シハ川並金堂市田北庄七里ノ五ヶ村ヲ稱セシガ今ハ之レニ石馬寺位田石川五位田下日吉原屋ノ六ヶ村ヲ合セ稱ス夫江州商人ハ古來名ヲ天下ニ知ラレ今ニ於テモ諸國ニ支店ヲ設ケ富巨萬ヲ累ナルモノ少シトセズ是等ノ商人ハ此邊ヨリ出ル最モ多シト云フ

## YEIGINJI.

### 永源寺ノ畷

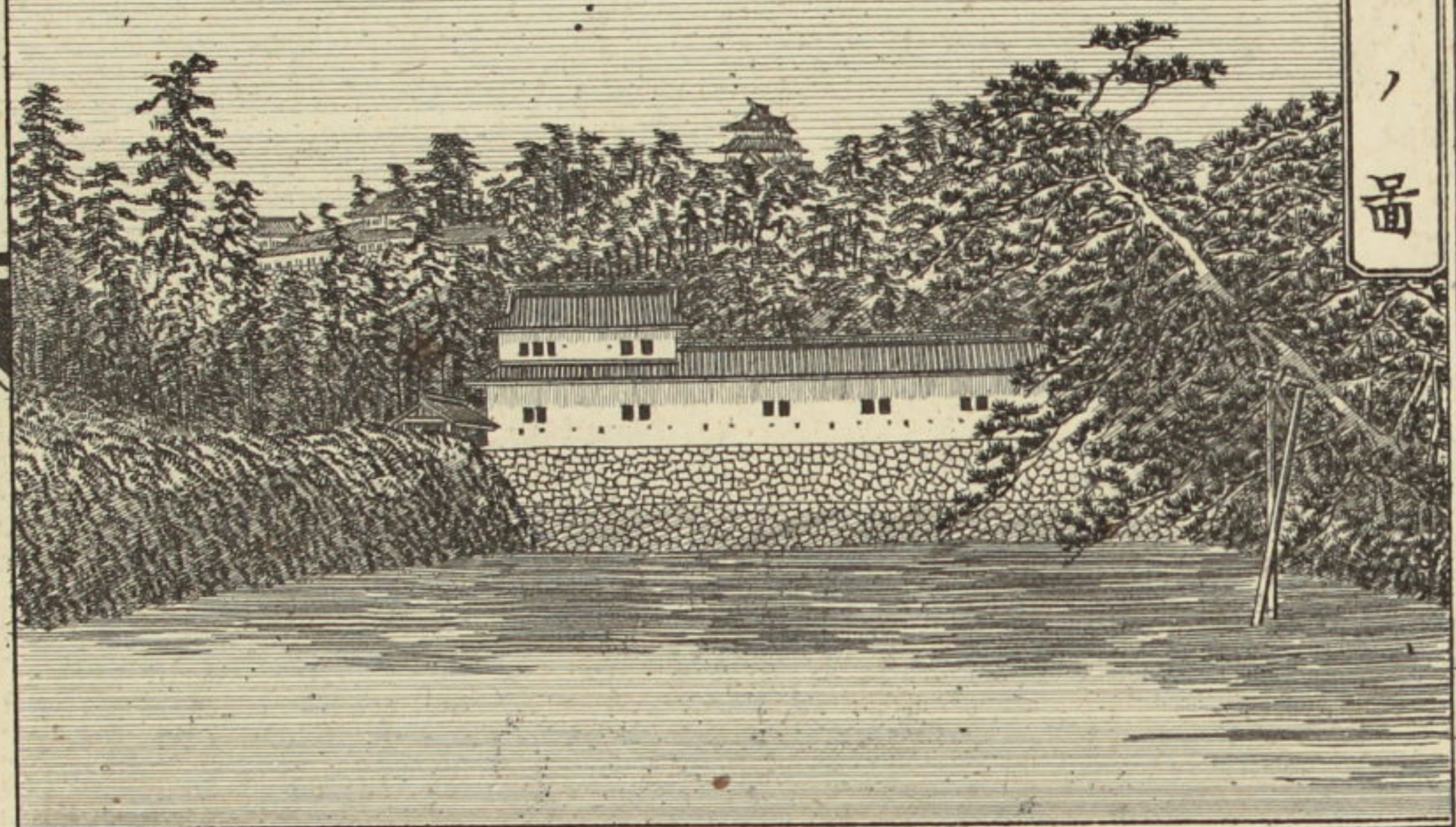


### 愛知郡

永源寺ハ瑞石山ト号ス愛知川ノ上流高野村ノ山腹ニアリ康安元年圓應國師ノ開基ニシテ臨濟禪宗ナリ往時ハ頗ル巨刹ナリシモ永祿中火災ニ罹リ堂宇多クハ灰燼ニ歸シ元龜二年織田信長ノ為メニ復タ焚カレ寛永ノ末ニ至リ伽藍ノ再建アリ後チ彦根城主井伊掃部頭内命ヲ受ケ此寺ヲ保護セシト云フ山ハ楓樹多シ毎歲其季ニ至レバ恰モ紅錦ヲ懸タルカ如

THE CASTLE OF HIKONE.

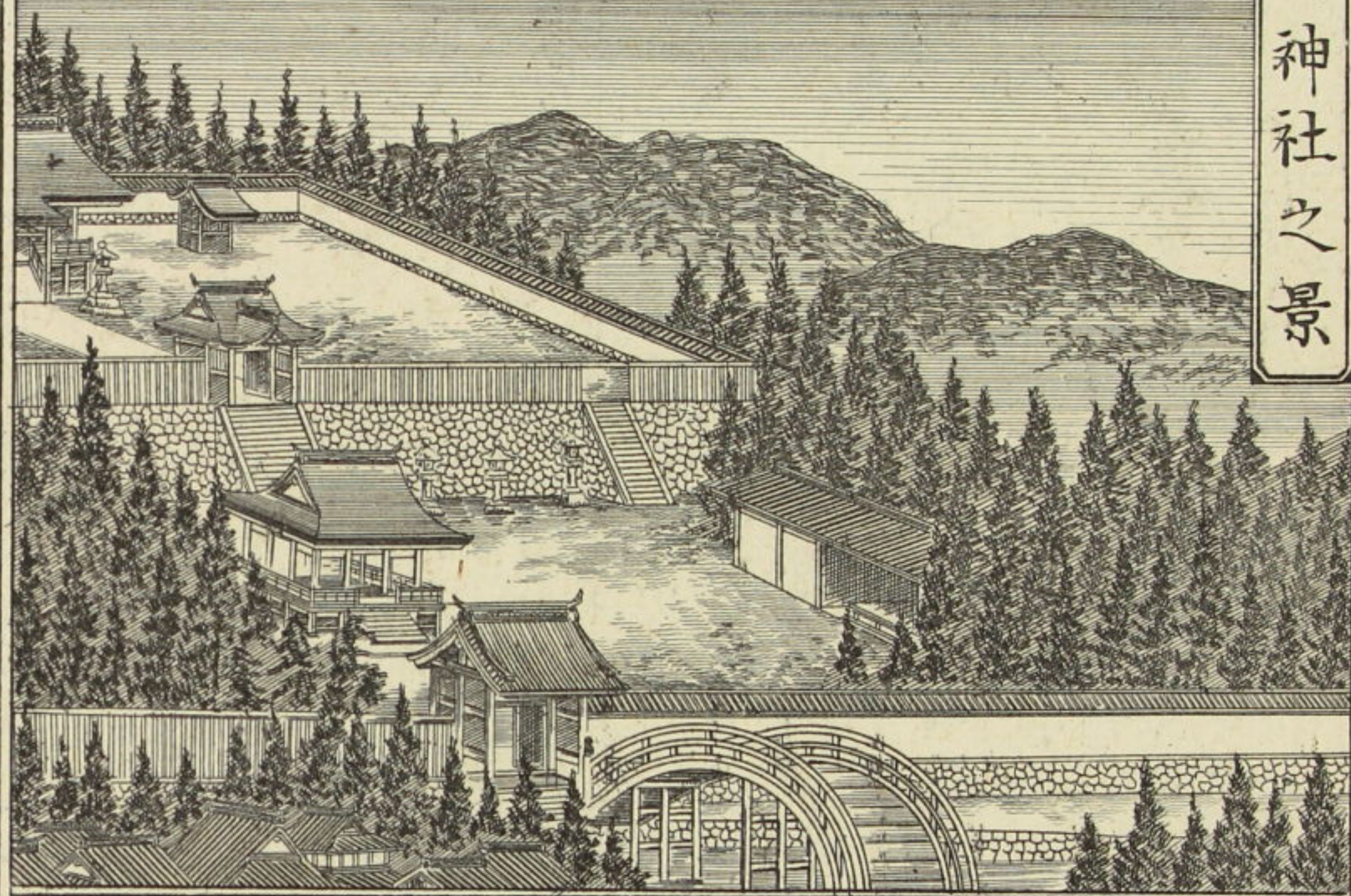
彦根城ノ景



彦根ハ當國第一ノ繁都ナリシモ  
 廢藩後ハ戸口漸ク凋零シ現今  
 ノ戸數三千五百五十餘人口一  
 万九千七百ニ過ギズ物産ノ主  
 タルモノヲ林檎紅蕪トス  
 彦根城ハ山ヲ金龜ト云ヒ井伊  
 氏歴世ノ居城ナリ関ヶ原ノ  
 役直政軍功アリ佐和山城ニ  
 封セラレテ十八万石ヲ領ス台  
 命アリ築城ノ經營ヲ為ス土  
 功未ダ成ラズシテ卒シ其子  
 直勝嗣ギ慶長九年此城ニ移  
 ル庶弟直孝繼グニ及ンテ加

TAGA-JINSHA.

多賀神社之景



犬上郡  
 遠ク来リ賞スルモノ甚々多シ  
 珠ニ此地ハ市塵ヲ離ル、ヲ以テ  
 幽静ノ情味亦タ愛スベキナリ  
 官幣中社多賀神社ハ多賀村ニ在リ  
 伊弉諾尊ヲ祭ル境内ニ赤社多シ  
 多景島ハ彦根ヨリ湖上凡ソ一里半  
 見塔寺ト称スル一小刹アリ巖石  
 二南無妙法蓮華經ノ七字ヲ刻ス  
 島中樹木甚々鮮ク唯竹篠ノ繁生  
 スルノミ周廻亦タ僅ニ五町舟窓  
 之レヲ眺メハ恰モ假山ノ如シ

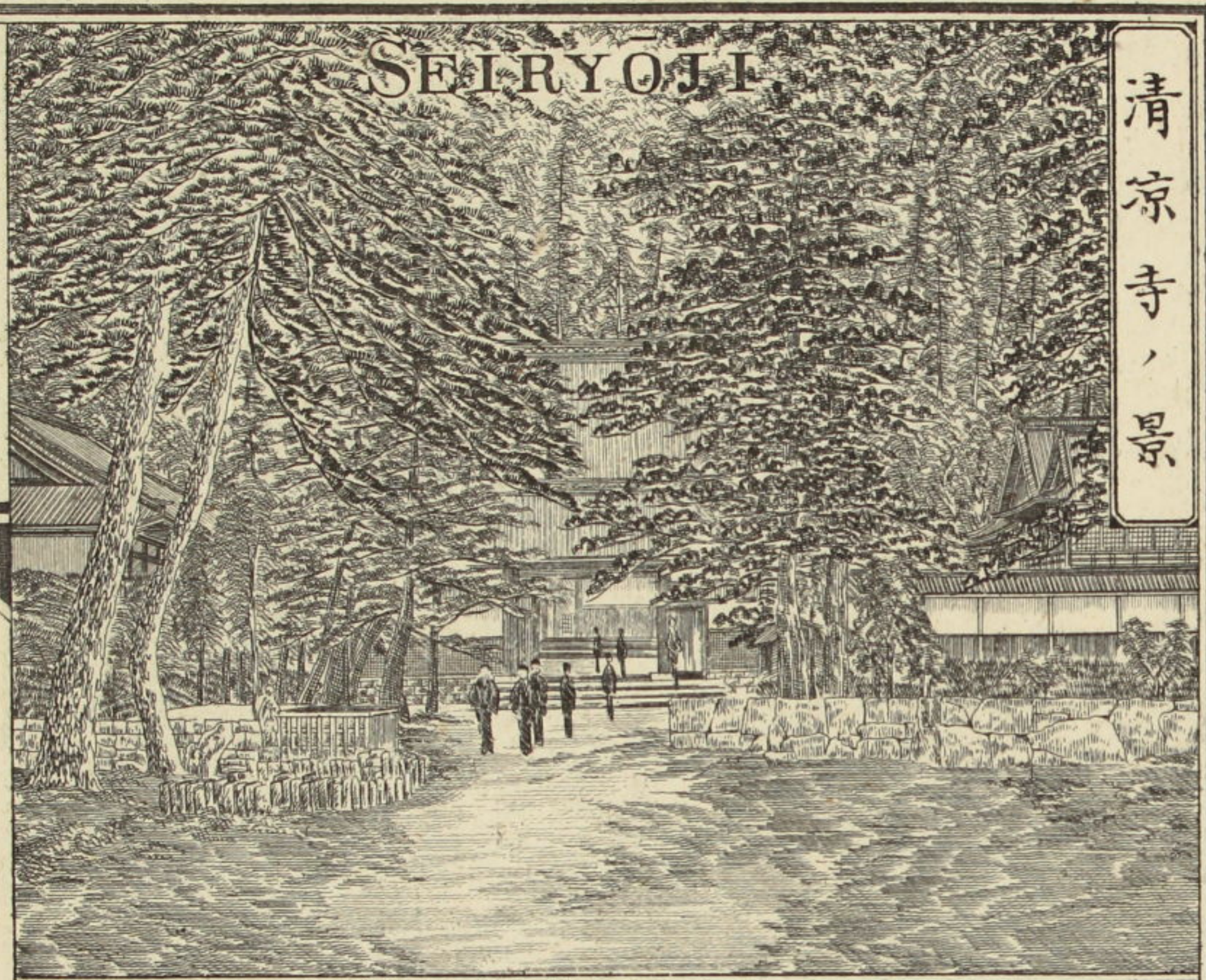
樂々園ノ景



RAKURAKU-YIN.

封敷次三十五万石ヲ領ス後  
 テ數世ヲ經テ大老直弼ノ時  
 米國ノ使節ペルリ相州浦賀  
 ニ來リ我國トノ交通ヲ求ム  
 幕府未ダ答フル所ナシ攘夷  
 ノ論四方ニ囂々たり直弼英  
 断和親ヲ許ス物議騒然終ニ  
 江戸櫻田門外ニ於テ刺サル  
 實ニ萬延元年三月三日ナリ  
 其子直憲嗣ギ明治四年藩ヲ  
 廢ス  
 樂々園ハ槻御殿ト稱セシモノ  
 ニテ城ノ北ニ在リ舊藩主井

清凉寺ノ景



SEIRYOJI

伊氏ノ別業ニシテ正殿大廣  
 間龍見楓樂々等ノ諸室ニ分  
 千共ニ壯麗ヲ盡ス殊ニ樂々  
 ノ間ハ内湖ニ面シ風景絶佳  
 蓋シ樂々トハ樂山樂水ノ義  
 ヲ取りシモノナルヘシ又庭  
 園ハ総テ之レヲ近江八景ニ  
 摸シ泉水築山ノ美多ク得ガ  
 タキ所ナリ  
 清凉寺ハ井伊氏ノ香花院ナリ  
 千代ノ宮ハ多賀神社ノ末社  
 ナリ大洞辨財天ハ風景ニ富  
 ム其他井伊神社龍潭寺佐和

山神社天寧寺アリ道甚々遠カラズ共ニ巡遊スベキナリ  
佐和山城址ハ彦根城ノ北古澤村ニアリ

阪田郡

鳥居本村ハ多ク西瓜ヲ産ス風味佳良他ノ及バザル所ナリ

法界坊ノ梵鐘ハ上品寺ニアリ高三尺口徑一尺五寸厚二寸五分刻ム所ノ寄附人  
名中妓名寂モ多シ抑モ法界坊ハ了海ト稱シ當寺四代前ノ住僧ニシテ少壯ノ頃

江戸ニ遊學シ布教ノ為メ屢々足ヲ花街ニ入ル偶々北里ノ傾城花扇ナル者アリ

大ニ法界坊ヲ信シ梵鐘ノ勸進率先シテ之レヲ為ス世是等ノ事ニ起因シ目シテ  
破戒僧トナス畢竟ハ其事實ヲ誤リタルモノニシテ彼演劇ノ如キハ敢テ論ズル

ニ足ラザルナリ

磨針嶺ハ鳥居本ヨリ中仙道ヲ番場ニ出ツル間ニアリ嶺上ニ望湖館ヲ設ク登臨ス  
レバ磯ノ入江山麓ニアリ白砂一帯琵琶湖ト相界フ中央ニ松林アリ是即チ鍋祭

ヲ以テ著名ナル筑摩神社ニシテ西南ノ岡巒中聖壁見ハル、ハ彦根城ナリ其西  
ニ當リ一小島アリ之レヲ多景島トス湖岸弓ノ如ク北ニ至リテ突出ノ處入烟ノ  
稠密ナルハ長濱ニシテ竹生島又其北ニアリ對岸ニハ比良比叡ノ諸峰煙雲香靄  
ノ間ニ屹然タリ總テ湖山ノ好景之レヲ湖東ノ第一ニ推ス蓋シ失當ナラザルベ  
シ

長濱ハ古ヘ今濱ト稱ス戸數二千四百餘人口六千八百三十餘アリ物産ノ内取モ主

タルハ縮緬ニシテ世ニ濱縮緬ト稱スルモノ是ナリ

長濱城址ハ市街ノ西湖畔ニアリ上坂治部大輔此地ニ城キ之レヲ今濱城ト号ク

永正中淺井氏ノ為メニ毀タル天正二年羽柴秀吉信長ノ命ヲ受ケ再ヒ城キ居

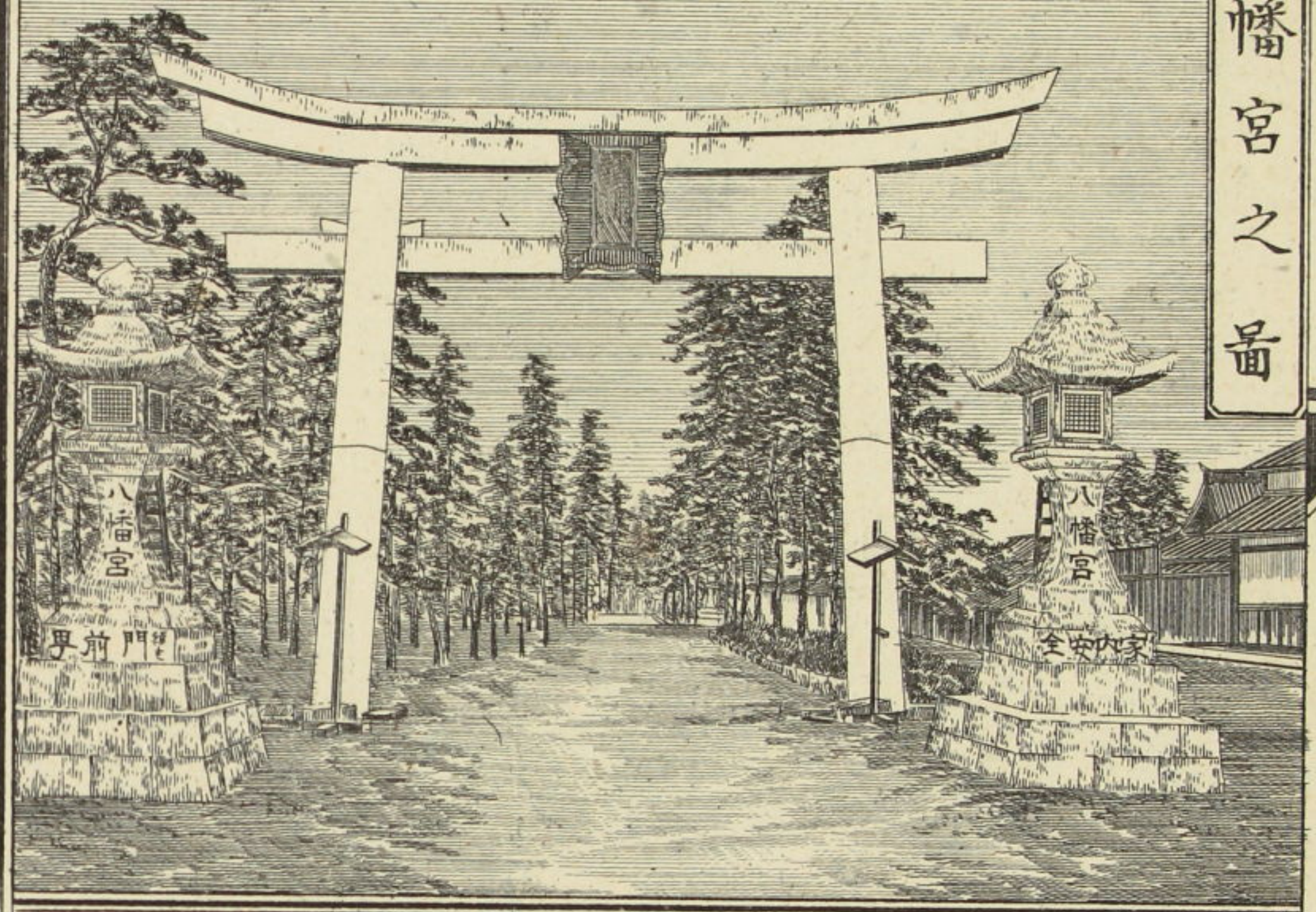
ル是レヲ長濱城トス即チ秀吉城主トナルノ始メナリ幾クモナク姫路城ニ移

リ諸將交々其後ヲ守ル慶長中ニ至リ徳川氏其臣内藤信成ヲ此ニ封セシマ

リ城墟ハ現時總テ兼田トナリ僅ニ舊名古稱ヲ存スルノモ

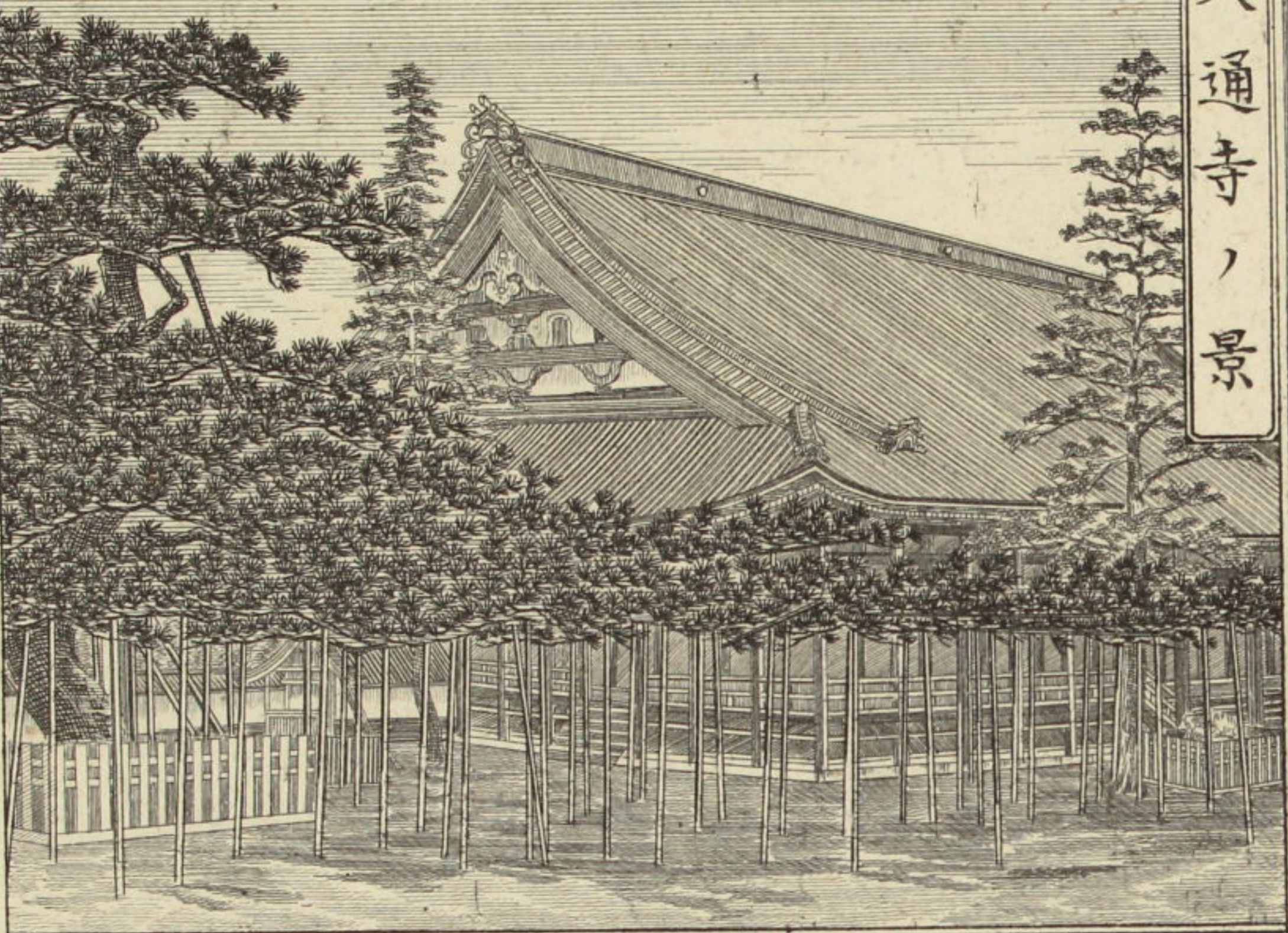
八幡宮ハ源義家延久元年ノ建立ナリ例祭十月十三日十五日ニハ曳山ヲ出シ幼兒

YAWATA-JIN SHA.



ヲミテ劇ヲ演ゼシム曳山ハ其  
 数十二アリ彫梁画棟飾ルニ錦  
 繡ヲ以テス遠近来リ觀ルモノ  
 頗ル多シ  
 大通寺ハ東本願寺ノ別院ニシテ  
 里人之レヲ御坊ト呼ブ寛永年  
 間(凡ソ二百)ノ創立ナリ本堂ハ  
 七十年前)ノ創立ナリ本堂ハ  
 舊伏見桃山ノ軍議場ヲ移シタ  
 ルモノニテ裏門ハ長濱城ノ門  
 扉ヲ用井タルナリト云フ境内  
 ニ松アリ翁壽トシテ翠影地ニ  
 満ツ亦得ガタキノ老松ナリ榜  
 シテ昔友ト号ク

DAITSUJI.



膽吹山ハ美濃ノ國境ニ聳ヘ當國第  
 一ノ高山トス古ヘ皇子日本武尊  
 東夷ヲ平ケ凱旋ノ途次徒行シテ  
 此山ニ上リ妖神ヲ除カントス神  
 巨蛇トナリテ道ニ當ル皇子一眺  
 シテ之レヲ過ギ毒霧ニ中リ玉ヒ  
 シヲハ歴史ノ傳フル處ナリ若シ  
 登山ヲ試ミント欲セバ盛夏ノ候  
 山麓ノ上野村ニ至リ先導者ヲ雇  
 ヒ輕装シテ夜半ニ發シ未明其絶  
 頂ニ達スベシ登路ハ僅ニ一里ニ  
 十町ナルモ峻嶮ニシテ殆ンド攀  
 登ニ堪ヘ難キ處アリ絶頂ハ平坦

ニシテ方四町餘彌勒菩薩ノ石像ヲ安ス此処ニテ日出ヲ望メバ實ニ壯觀ナリ夫  
 レヨリ山中ノ名跡ヲ探リ或ハ湖山ノ風光ヲ賞セバ知ラズ識ラズ胸襟ノ豁然タ  
 ルヲ覺フナルベシ山腹ニハ畑アリ蕎麥菜種等ヲ作ル此山概シテ樹木少ナク登  
 路ノ三分一ヲ上レバ一望草ノミニシテ恰モ種ノ如シ殊ニ其草ハ採テ藥餌ニ充  
 ツルモノ多シ天文ノ季西人西洋ノ人ウルガシテレナル者来テ天主教ヲ唱フ信長之レヲ信シ京都ニ  
 居ラシメ當國甲賀郡ノ内及ヒ此山ヲ與フ即チ藥草ヲ植ヘシハ其時ナラン  
 (ト云)ノ植ヘシモノナリト云フ西南ノ山尾ニ京極氏ノ城址アリ

冬ふくく野もありまわり近江多るおきの外山雪降ぬらし 曾稱好忠

かくとちよるやい吹のさも草あしとまじしなりゆる思ひを 藤原實方

醒ヶ井村ニ居醒ノ泉アリ日本武尊伊吹山ニ於テ毒氣ニ感ジ恰モ醉ヒタルモノ、

如ク依テ此處ノ清泉ヲ汲ミ煩悶ヲ愈セシメ玉ヒシニ忽チ醒ムルヲ得タリ故ニ

名クト又尊ノ休憩セラレシ石アリ腰掛石ト云フ

水上ハ清き流きの醒井より世の垢をとめてや見む

汲てある人もいづ醒井の清き心をおもれとや見む

西行法師  
宗尊親王

まの立都の名残おもひ寐比夢もむをぬ醒る井此里

今出川 近衛局

中納言源具行墓ハ柏原村ノ西五町ニアリ後醍醐天皇北條高時ヲ誅セントシ事敗

レテ南都ニ幸ス具行藤原藤房等ト共ニ扈從シ帝ヲ扶ク已ニシテ執ヘラレ東送

セラレントシ終ニ此地ニ於テ斬ラル命ニ臨ミ句下リ

生死道遙四十二年山河一革天地洞然

東淺井郡

姉川ハ水脈長サ十三里半湖北第一ノ大河ナリ元龜元年織田信長淺井長政ヲ小谷

城ニ攻ムルヤ兩軍此川ヲ夾ミ劇戰數合淺井氏大敗終ニ亡ブ世ニ姉川合戰ト稱

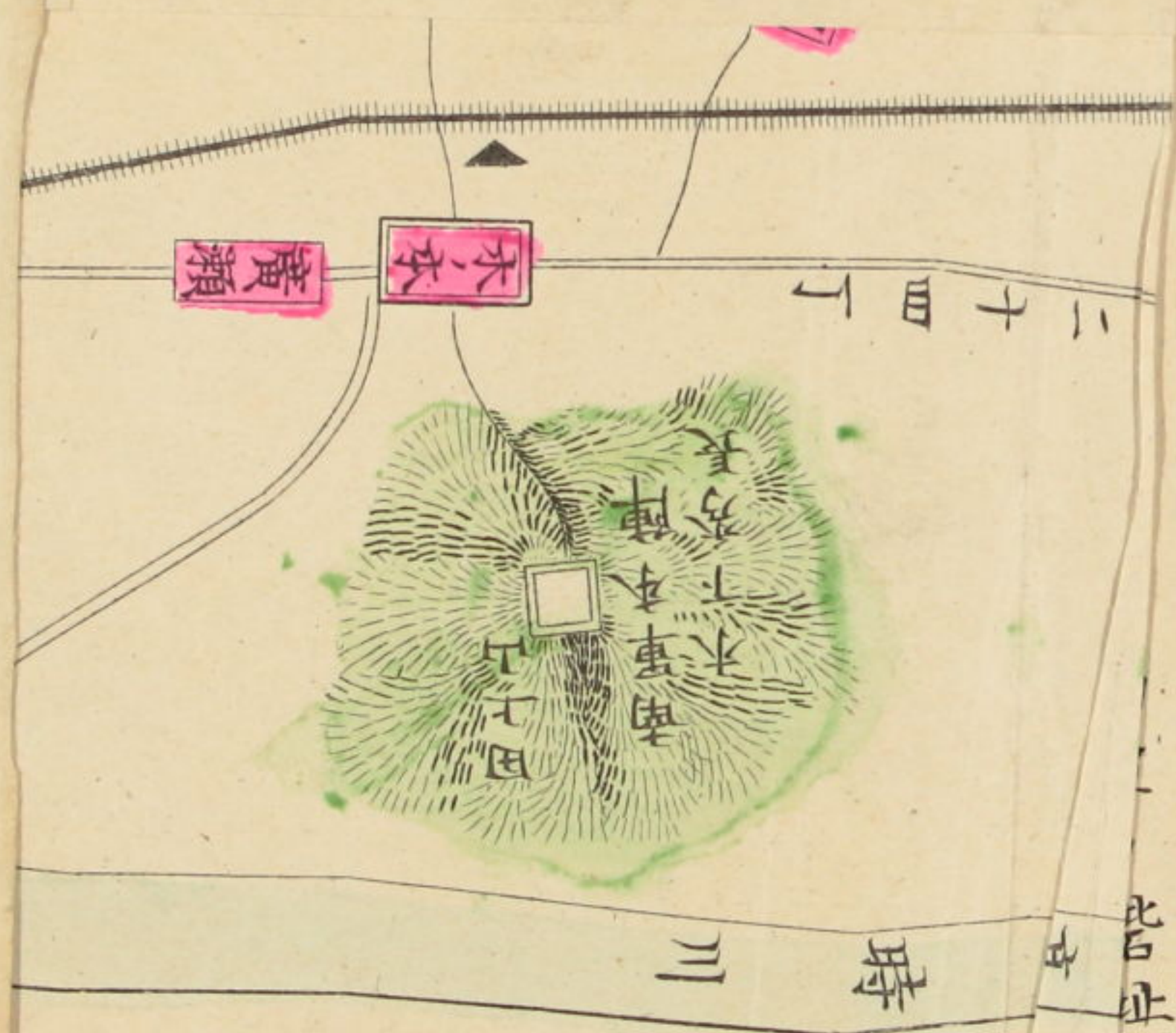
スル是ナリ

竹生島ハ琵琶湖ノ極北ニ在リ周廻十八町餘四面湛碧藍ノ如ク深サ百尋秀巖ノ突

怒スルアリ老樹ノ倒懸スルアリ沙鳥無數其間ニ飛翔ス幽雅清淑真ニ画趣ト云

フベシ島上ニ都久布須摩神社アリ淺井姫命ヲ祀ル又辨財天女ノ祠及ヒ觀世音

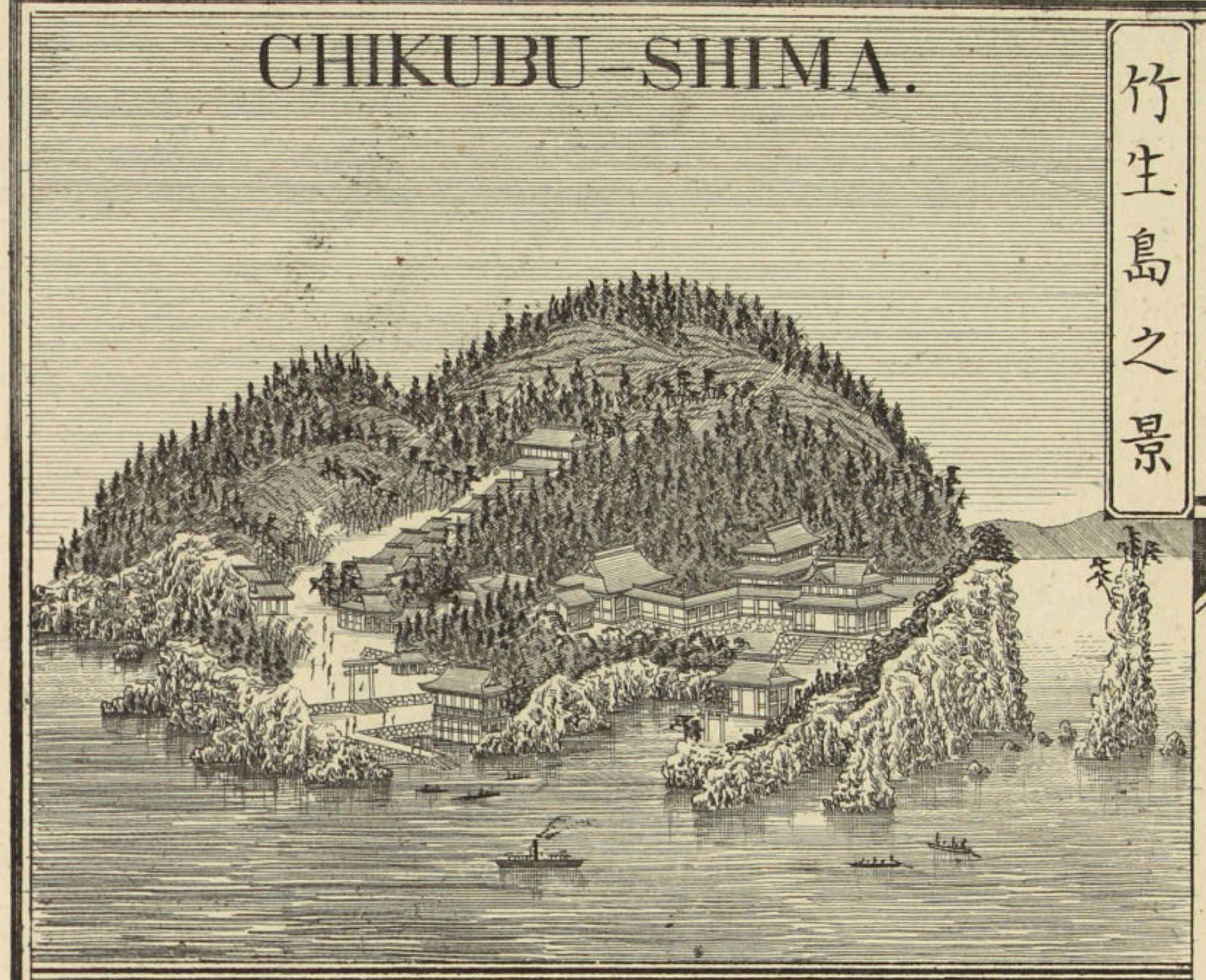




凡例

CHIKUBU-SHIMA.

近江名所案内  
竹生島之景



五十六

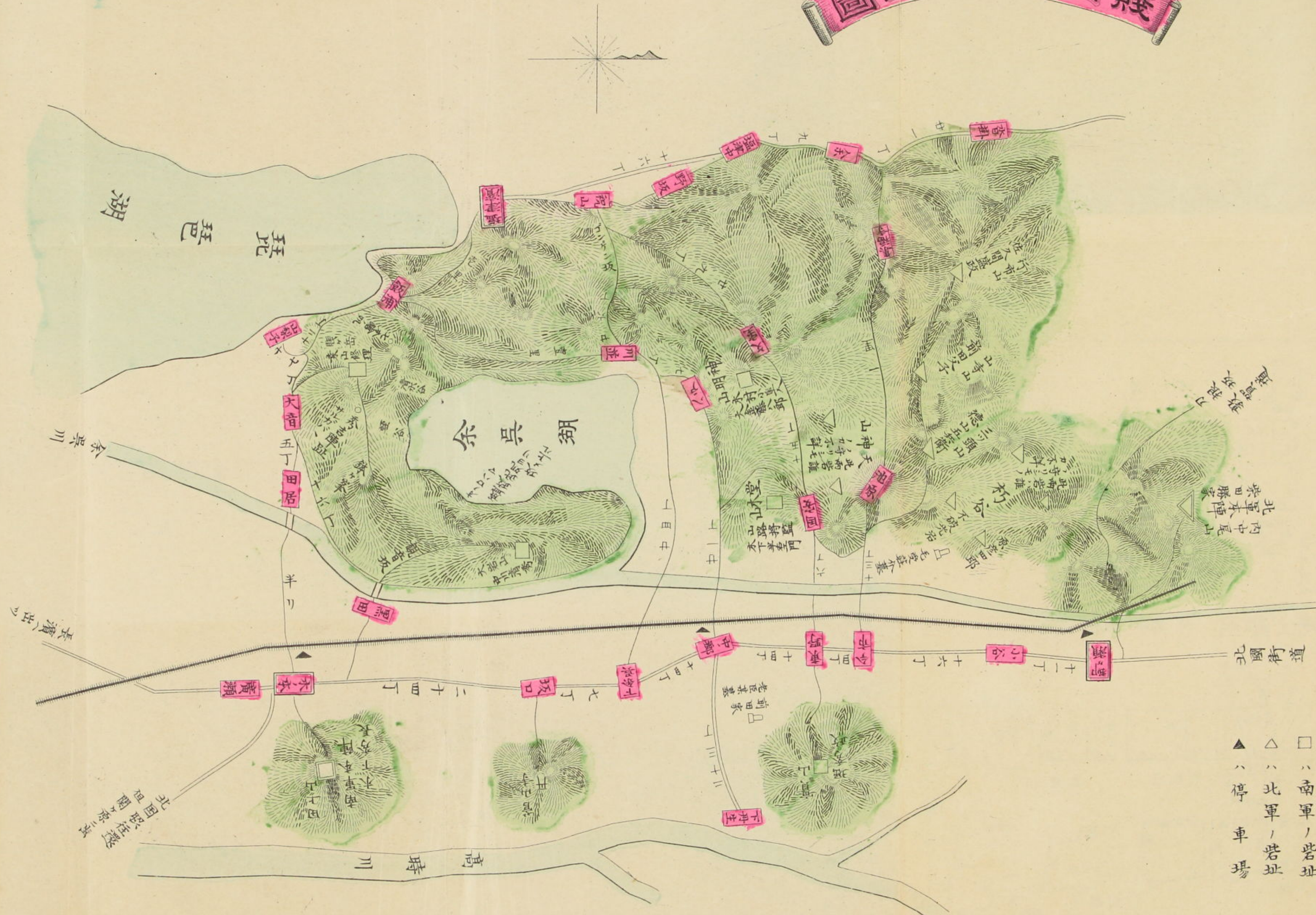
近江名所案内

ノ堂ドウ（西國三十三所ノ）アリ昔シ平經  
正此島ニ遊ビ琵琶ヲ神前ニ彈ジ  
タルニ白狐アリテ社壇ヨリ出ヅ  
經正以為ク神ノ化現ナリ諸願必  
ズ成就セント則チ歌ヲ作り云フ  
千早振る神ノ祈のかゝへびやよ  
ろくも色いろのあらまよふりト僧  
舍ムカシハ往時數十坊アリシモ今僅ニ  
二三ヲ存スルノモ所藏ノ竹宝甚  
ダ多シ

伊香郡

キノモトヤザウテラシヤウシンジ  
木之本地藏ハ寺ヲ淨信寺ト云フ白

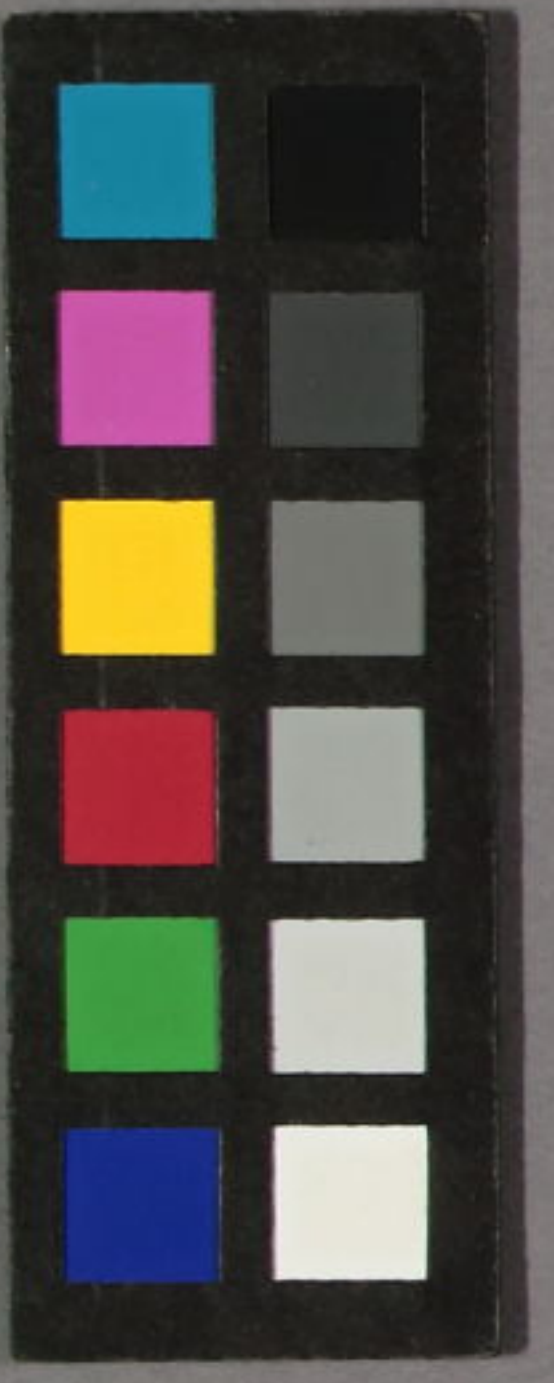
賤岳古戰場之圖

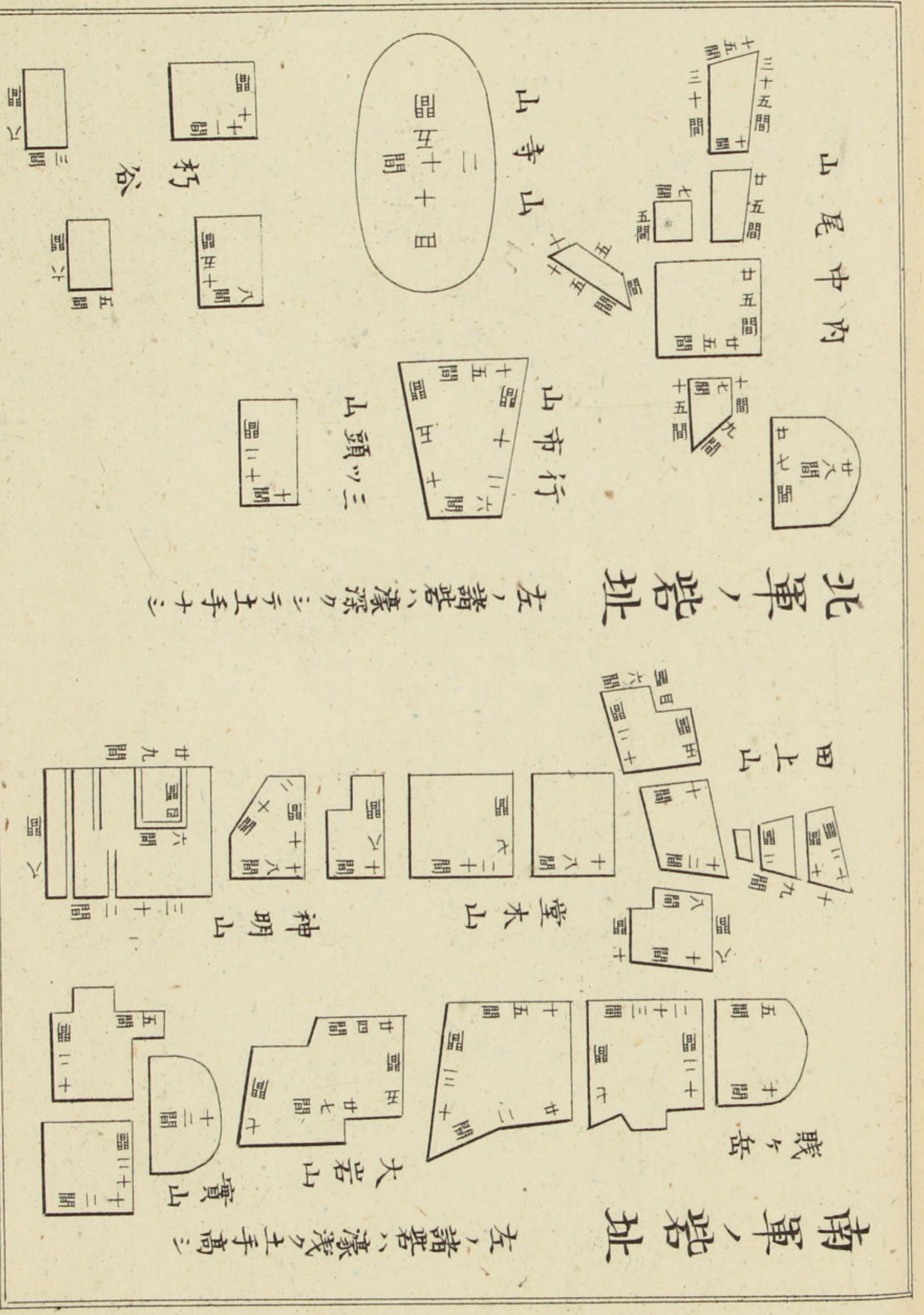


- 凡例
- 南軍ノ砦址
  - △ 北軍ノ砦址
  - ▲ 停車場

キノモトチザクテラニヤウシジ  
木之本地藏ハ寺ヲ淨信寺ト云フ白

9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6





北軍、砦址

左、諸砦ハ濠深クニテ土手ナシ

南軍、砦址

左、諸砦ハ濠浅ク土手高シ

鳳<sup>ホウ</sup>三年凡ソ千二百廿年前ノ建立ニテ始<sup>ハジ</sup>ノ抑木山ト号セシヲ昌泰二年菅原道真改<sup>スガハラミチサネアラタ</sup>  
 メ千長祈山ト呼<sup>ヨ</sup>バシム佛像ハ長六尺餘アリテ龍樹菩薩ノ作ナリ祈誓スル者必<sup>カミラ</sup>  
 ス靈應アリト称<sup>イハ</sup>シ諸者常ニ多ク木魚ノ色晝夜ヲ絶<sup>タズ</sup>タズ  
 賤ヶ岳ハ木之本村ノ西北半里ニアリ大音村ヨリ登路ハ町餘余吾湖其北麓ヲ繞<sup>メ</sup>ル  
 湖ニ浴<sup>ソ</sup>フテ東北ニ連ルモノ之レヲ大岩山トス總テ此近傍數里ハ世ニ賤ヶ岳合<sup>カ</sup>  
 戦ト称<sup>イハ</sup>シ天正中羽柴紫田兩雄壘ヲ構ヘシ処ニシテ此山ハ是レ戰ノ中心トナリ  
 シモノナリ今戰場遺跡ノ畝ヲ製シ其梗概ヲ説カントス  
 衆山修理ノ岩址ハ賤ヶ岳ノ絶頂ニアリ近時碑ヲ建テ合戦ノ事跡ヲ明カニス  
 猿ヶ馬場ハ秀吉美濃ヨリ來リ金瓠馬表ノ下ニ於テ軍令ヲ布キタル處ナリト云  
 七本鎗ハ加藤清正福島正則加藤嘉明平野長泰脇坂安治糟谷武則片桐且元ノ七  
 壯士ニシテ其勇戰ノ場所ハ猿ヶ馬場ヨリ清水ヶ谷マテノ間ニアリト云フ  
 中川清秀墓ハ大岩山ニアリ即チ清秀ノ據守セシ処ニシテ最モ要害ノ場所ナリ

トス墓ノ傍ラニ石ヲ立テ五言一律ヲ刻シ後裔豊後岡城主中川修理太夫ノ建ツル所ナリ其詩ニ曰ク

昔日屯軍地慨然憶指揮。壘虛山鳥過。碑濕岫雲歸。登陟攀空翠。

躡踏對落暉。功名著竹帛。千載欽英威。

尾野路濱ハ盛政清秀ヲ襲フ片攻メ上リシ列ニテ北軍ノ先鋒南軍ノ馬卒ヲ斬リ

タルモ亦タ此處ナリ

木下秀長ノ砦趾ハ木之本村ノ北ニアリ是レ即チ南軍ノ本陣ナリ

明神山ノ砦ハ木村小牟入大金藤八郎ノ守リシモノニテ堀秀政ノ砦趾ハ東野村

ノ東ニ在リ

堂木山ハ山路將監木下半右衛門兩人ノ守リシ處但シ山路將監ハ北軍ニ降リ盛

政ヲ勸メテ清秀ヲ襲ハシム

以上記セシ處ハ南軍ノ諸砦ニシテ以下説ク所ハ總テ北軍陣營ニ係ル

事跡ナリトス

天神山ノ砦ハ誰ノ據リタルモノナルヤ分明セズ蓋シ北軍始メ此處ニ據ラント

セシモ南軍來テ神明堂木ノ諸砦ヲ禁クニ及ビ其距離ノ甚タ近キヲ以テ之レ

ヲ廢セシモノナラニカ

佐久間盛政ノ砦址ハ行市山ニアリ盛政大岩山ヲ攻メシハ先ツ道ヲ集福寺坂

ニ取り塩津谷ヲ經テ權現坂ニ出デシト云フ

前田父子ノ砦址ハ山寺山ニアリ賤ヶ岳ノ敗聞至ルヤ老臣某曰ク今強テ秀吉ニ

抗セバ必ズ家ヲ亡サニシテ請フ君先ツ密ニ歸城アラシムコトヲ臣ハ止マリテ此

地ニ死セシ異日秀吉若シ訊アラバ事皆十罪ヲ臣ニ歸セヨト利家其言ヲ納

ル前田氏依テ禍ヲ免ル

三ツ頭ハ徳山五兵衛朽木谷ハ原彦四郎不破光治等ノ砦址ナリ

毛受庄助墓 庄助ハ忠臣ナリ勝家此地ヲ遁レントスルヤ事急ナリ庄助祥テ勝

家ト稱シ奮戰之レニ死ス

内中尾山ハ柴田勝家ノ據リシ處ニテ即チ北軍ノ本陣ナリ

余呉湖ハ東西九町南北十八町周廻一里廿八町アリ岡陵透遷之レヲ圍ミ樹色水光  
 互ニ掩映シ風景佳絶ナリ里人傳ヘ云フ往時天女此湖ニ浴ス桐畑太夫ナル者ア  
 リ羽衣ヲ拾フ天女哭シテ返サント云フ聞カズ終ニ其家ニ行キ妾トナリ一男  
 ヲ生ム菅原是善曾テ此地ニ遊ビシ片其兒ヲ見ルニ自ラ非凡ノ相アリ依テ養フ  
 テ己レガ子トス是レ即チ菅原道真ナリト  
 坂口村ニ銘ヲ賣ル菊水ト名ク風味佳良頗ル家土産ニ適ス

近江名所案内 畢

明治二十七年七月三日印刷  
 明治二十七年全月十日發行



著者 滋賀縣平民 杉本善郎

當時滋賀縣近江國高嶋郡大溝村  
 大字勝野三百七十六番屋敷寄留

印刷者 京都府平民 井上善之助

京都市上京下立賣通千本  
 西入稻葉町第十壹番戸

發行者 滋賀縣平民 古川伊助

近江國大津後在家町  
 第九番邸

發行者 滋賀縣平民 中井久治郎

近江國大津上小唐崎町  
 第二十番邸

近江名所案内

二二二二二二二二



